

日本医科大学 衛生学公衆衛生学

川田 智之 教授

就任 10 周年記念誌



目次

| | |
|----------------------|----|
| ごあいさつ | 3 |
| 教室員から | |
| 教室員一覧 | 6 |
| 川田 智之 | 7 |
| 李 卿 | 8 |
| 大塚 俊昭 | 9 |
| 若山 葉子 | 10 |
| 稲垣 弘文 | 11 |
| 李 英姫 | 12 |
| 勝又 聖夫 | 13 |
| 平田 幸代 | 14 |
| 可知 悠子 | 15 |
| 平田 紀美子、五月女 孝子、小林 麻衣子 | 16 |
| 加藤 活人 | 17 |
| 業績 | |
| 原著論文 | 20 |
| 総説 | 33 |
| レターその他 | 36 |
| 著書 | 43 |
| 学会発表 | 47 |
| 研究助成等 | 71 |
| 受賞 | 74 |
| 知的財産 | 75 |
| 編集後記 | 76 |

ごあいさつ

衛生学公衆衛生学分野開講 10 周年を記念し、ひとこと御挨拶申し上げます。

2003 年 5 月、南正康名誉教授のあとを受けて、日本医科大学主任教授として着任いたしました。教室員各位のご尽力により、教育・研究活動を現在まで続けることができ、学内でさまざまな経験をさせていただきました。

一口に 10 年と申しますが、その間、複数の教室員の転出があり、代わって新しい人材を得ることがかない、現在に至っております。

私は、学生および社会人としては、首都東京での活動はほとんどなかったもので、人やものの行き来が激しい環境に慣れるまで、しばらくの時間がかかりました。一方、そのような環境に慣れてきますと、利便性の優れたことも理解できるようになりました。

今後の 10 年間を考えたとき、本分野の教室員がかかわるであろう教育・研究・社会活動について、広く深い展開が期待される実感があります。この 10 周年記念誌は、各教室員が過去を振り返り、将来展望を描くための一里塚にしたいと考え、通常よくある出版形式を離れて、教室員各位の仕事を中心に据えたものとして編集した次第です。

私の教育・研究活動は、恩師である群馬大学名誉教授 鈴木庄亮先生のご指導によるころ極めて大であります。先生から離れて 10 年の節目を思うとき、理想と現実の距離に戸惑うばかりです。それでも、最も大切な財産である「人づくり」に精をだして、本分野が拡大再生産をはかれるよう、日々精進したいと考えています。

ここに、偉大な思想家であり教育者でもある會津八一先生の「学規」を掲げさせていただき、本分野運営のための標（しるべ）としたいと考えます。この言葉は、私の出身高校の校長をされていた鈴木章介先生が、全校集会のおり、心をこめて紹介してくださったものであり、深くしみ入る言葉です。

ふかくこの生を愛すへし
かへりみて己を知るへし
学藝を以て性を養うへし
日々新面目あるへし

秋艸道人

2013 年 5 月 1 日

日本医科大学衛生学公衆衛生学分野 大学院教授 川田智之

教室員から

教室員一覧

2003年5月

| | | | | | |
|---------|--------|-------|-------|-------|--|
| 教授 | 川田 智之 | | | | |
| 助教授 | 永原 則之 | | | | |
| 講師 | 若山 葉子 | 稲垣 弘文 | 李 卿 | | |
| 助手 | 勝又 聖夫 | 平田 幸代 | 李 英姫 | 澤田 典里 | |
| 主任研究技術員 | 平田 紀美子 | | | | |
| 研究技術員 | 清水 孝子 | 中台 亜里 | 鈴木 博子 | | |

2013年3月

| | | | | |
|----------------|--------|-------|-------|--|
| 教授 | 川田 智之 | | | |
| 准教授 | 李 卿 | 大塚 俊昭 | | |
| 講師 | 若山 葉子 | 稲垣 弘文 | 李 英姫 | |
| 助教 | 勝又 聖夫 | 平田 幸代 | 可知 悠子 | |
| テクニカル・スタッフ | 平田 紀美子 | | | |
| テクニカルサポート・スタッフ | 五月女 孝子 | | | |
| アシスタント・スタッフ | 小林 麻衣子 | | | |
| 大学院生 | 加藤 活人 | | | |



2013年春 根津神社にて

職名 大学院教授 氏名 川田 智之 勤務期間 2003年5月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育，研究，社会活動，教室運営など）

教育関連：衛生学講義・実習，社会医学講義，BSL，基礎配属などを担当

研究関連：衛生学公衆衛生学分野所属の各教職員が進めている研究内容へのアドバイス，自己研究としては，職域および地域疫学調査の実施とその評価（公表），外部研究資金獲得のためのアドバイスなどを中心に，幅広い研究活動を展開してきた．教職員各位が希望する内容に沿った指導を心がけている．

学内業務：教育委員会，図書委員会（委員長），大学院委員会，PR情報委員会，倫理委員会，入試検討委員会などの各委員

地域社会活動：文京区地域保健推進協議会および同区地域福祉推進協議会保健部会の各委員

2) 今後の業務計画と到達目標

本分野発展のため，組織運営に全力を尽くしたい．会計，庶務，教育担当教員を軸に，その他の教職員の力も借りて，組織が拡大再生産されるよう，「配慮の分野運営」に心がける．最終目標は，教職員各位の「職業満足度」の向上である．働いていてよかったと感じられるような職場でありたい．

職名 准教授 氏名 李 卿 勤務期間 1994年4月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育、研究、社会活動、教室運営など）

1. 教育について

衛生学の講義・実習・基礎配属および社会医学コース講義を担当し、大学院では「環境医学分野」の講義と実習を担当している。また1年生の医学入門、2年生SGLチューター、4年生SGLチューターをそれぞれ1回ずつ担当した。第16回医学教育のためのFDワークショップに参加した(H20年)。なお看護学校の講義も担当している。

2. 研究について

(1) 森林医学分野の研究

2004年から公的助成金を受け、森林環境の健康増進効果、特に森林浴による生体免疫機能への影響に関する研究を行い、森林浴が生体の抗がん免疫機能を高め、ストレスホルモンと血圧を減少させることを明らかにした。2007年に日本衛生学会で代表世話人として「森林医学研究会」を立ち上げ、「森林医学」の確立を目指している。

(2) 環境免疫学分野の研究

本研究は、有機リン農薬やカーバメイト系農薬等の産業・環境化学物質及びライフスタイルやストレスによる生体免疫機能、特にNK細胞機能への影響及びそのメカニズムについて検討しており、「環境免疫学」の確立を目指している。

3. 社会活動について

日本衛生学会森林医学研究会代表世話人、森林セラピーソサエティ理事、国際森林研究機構 IUFRO「森林と健康」運営委員会委員、国際自然・森林医学会副会長・事務局長及び日本衛生学会英文雑誌編集委員を務め、積極的に社会活動に参加している。2010年から本学国際交流センター運営委員を務め、本学の国際交流に積極的に携わっている。

4. 教室運営

教室の会計を担当しており、積極的に教室運営に尽力している。

2) 今後の業務計画と到達目標

1. 教育について

教授をサポートし、積極的に衛生学公衆衛生学の講義・実習及び大学院教育に参加する。

2. 研究について

これまでの研究を継続・発展させ、「森林医学」と「環境免疫学」の確立を目指す。

3. 社会活動について

これまで通り積極的に社会活動に参加する。

4. 教室運営

教授をサポートし、積極的に教室運営に尽力する。

職名 准教授 氏名 大塚 俊昭 勤務期間 2008年4月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育、研究、社会活動、教室運営など）

・教育関連

- ① 医学部第3学年および第6学年の衛生学・公衆衛生学講義、および第3学年の衛生学実習、基礎配属を担当
- ② 医学部第3学年副担任（2011年度）
- ③ 医学部第2学年および第1学年のSGLチューターを担当
- ④ 医学部第6学年国家試験タスクフォース（公衆衛生学分野）を担当
- ⑤ 日本医科大学看護専門学校およびすみだ医師会立看護専門学校における講義を担当

・研究関連

- ① 職域集団を対象とした循環器疾患および生活習慣病発症リスクに関する疫学研究
- ② 循環器疾患罹患患者識別に有用なモダリティの開発（循環器内科との共同研究）
- ③ 新たな心血管バイオマーカーに関する研究
- ④ 職域におけるより効果的な血圧管理方法に関する研究

・教室運営

- ① 教室ホームページの立ち上げおよび管理
- ② 教室会議事録、セミナーおよび抄読会記録の作成および管理

・その他学内外活動

- ① 日本産業衛生学会代議員（2008年～2010年）、日本動脈硬化学会評議員（2012年～）
- ② 第77回日本循環器学会学術集会準備委員

2) 今後の業務計画と到達目標

① 研究について

医学および社会の発展に貢献しうるような研究活動を行いたい。具体的には、

- ・より大規模な前向き職域疫学研究を行ない、労働者の健康保持に関する有益な知見を発信したい。
- ・東京23区東部において、医師会および行政との協力のもと、循環器疾患を対象とした地域疫学研究を実施し、「東京下町」発のエビデンスを発信したい。

② 教育について

医学部学生の国家試験合格はもちろんのこと、臨床医となった後も公衆衛生マインドを忘れることのないよう、記憶に残る教育を心がけたい。

③ 教室活動その他について

引き続き、教室ホームページや各種記録類の管理について、責任を持って行っていきたい。

職名 講師 氏名 若山 葉子 勤務期間 1975年4月～

1) 教授着任から現在までの主な教室関連業務（教育, 研究, 社会活動, 教室運営など）

①感染症の疫学研究：ウイルス肝炎地域流行の長期追跡研究

当教室が1960年代の流行当初より疫学調査を行いその後も継続して追跡調査を実施していた大規模なウイルス肝炎地域流行の長期追跡調査成績を解析し、既往者および肝炎流行地域の予後の解明にあたっている。本流行は主としてHCV（C型肝炎ウイルス）に起因するものであり、既往者・地域住民の凍結保存血清を用いて原因ウイルスの生体内動態と慢性肝炎・肝硬変・肝がんへの進展など肝病態の長期的推移との関連性について解析を行っている。平成18～20年度科学研究費補助金基盤研究（C）により実施した研究では、肝炎発症時より20年以上にわたる観察成績から当該HCV地域流行既往者の肝病態の進展は発症から比較的早期のHCV抗原量の増加に関連があることが示唆された。また、定期住民健康診査成績の解析から既往者を除いた地域住民においても高い肝機能異常率・肝炎既往・治療歴が認められるなどウイルス肝炎流行既往地区としての予後の特徴が明らかにされた。現在、HCVの質的側面・HCV以外の肝炎ウイルスの介在、さらに加齢など各種宿主因子の影響を踏まえた肝病態進展の長期的推移の特徴の把握・解析を続行中である。

②高齢者保健活動：高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究

平成16年より、都市在住高齢者の健康で自立した生活維持を目指して「健康運動教室」を主催しているグループ（神奈川県立保健福祉大学「健康調査グループ」）に参加し、年一回、形態・体力・生理機能測定、血清生化学的検査、アンケート調査等を実施し、高齢者がより質の高い生活を営むためにどのような運動習慣・生活習慣を身につけることが必要であるかを検討し、介護予防の支援に当たっている。上記調査・測定成績について各年ごと（約200名）の解析から、継続した運動習慣を身につけることにより体力（生活活動力）の維持・向上が示唆された。しかし、高齢者は個体差が大きく加齢影響を含めた経年的詳細な追跡解析が必要であり、現在、高齢者の健康度をより客観的に評価できる解析手法を検討中である。

同：ラジオ体操が身体機能に与える影響についての調査研究

平成21年度財団法人簡易保険加入者協会調査研究事業の一環として、神奈川県立保健福祉大学「健康サポート研究会」とともに、「全国ラジオ体操連盟」に所属する9グループ約500名を対象として、形態・体力・生理機能測定、アンケート調査等を実施した。分担当当した腹囲径の測定結果から、対象者は全国比で男女とも5cmほど小さい分布傾向が見られ、基準値以上を示す割合も低率であり、ラジオ体操継続期間・週当たりの体操参加回数との関連性も示唆された。

③国際保健活動：カンボジア健康教育プロジェクトなど

平成21・22年度にカンボジア・シェムリアップ州教育局の招聘により、複数の大学とともにプロジェクトチームを編成し、同州の次世代を担う青少年の体格・体力測定、生活習慣・健康教育・飲料水・栄養状態などの実態調査を実施した。小学校4・中学校3校を「健康教育モデル校」とし児童生徒約250人を対象に行った。わが国と比較して体格では2～4年ほどの差・体力では大きな差があり、都市部と農村部との格差も大きく、栄養・衛生など健康教育の重要性が示唆された。平成21年度より本学第3学年学生各年約10名を対象に国際保健協力のあり方について自主的学習プログラムを実施している。協力支援活動の一端として、平成24年度ではザンビアの孤児院へティシューペーパー・文房具等を贈った。

2) 今後の業務計画と到達目標

①ウイルス肝炎既往者（約600名）および地域住民（約2000名）の長期追跡成績をデータベース化し次世代の解析に備えるとともに、新たな解析手法について検討していく。

②経年的な推移を把握し、高齢者の健康度をより客観的に評価し介護予防の支援につなげる。

③アジア地域の開発途上国の保健医療福祉を概観し必要な支援について考察していく。

職名 講師 氏名 稲垣 弘文 勤務期間 1989年4月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育、研究、社会活動、教室運営など）

教育関連：3年生「衛生学」講義及び実習、5年生(旧)「公衆衛生学」講義、5～6年生(旧)「公衆衛生学」BSL、4年生(旧)「社会医学コース」講義、6年生「社会医学コース」講義、4年生 SGL、3年生(旧)グループ演習、2年生 SGL、基礎配属を一部担当した。他には、3年生 SGL 課題作成、6年生総合試験問題の作成を行った。CBT 関連は別掲。

研究関連：細胞培養技術、モノクローナル及びポリクローナル抗体を用いた生体物質の免疫学的測定や構造解析、HPLC 等を用いた化学分析を基盤技術として、衛生学公衆衛生学領域における研究活動を行った。主たる研究対象は、免疫系で働くとされているグランザイム 3 であり、平田助教と共同で研究を進めてきた。また、他の教室員が各自の研究を進める上で、上記基盤技術に関する事柄についての研究の補助、サポート、指導を行ってきた。さらに、学内他分野や学外の研究者についても、同様にサポート、共同研究を行った。

CBT 関連：当初より、共用試験機構による問題公募に対応する出題を行ってきたが、共用試験機構において行われた公募問題のブラッシュアップ作業に参加したのをきっかけに、共用試験機構のプール化専門部会委員を委嘱され、機構における会議や作業に参加してきた。学内においては、CBT 実行委員会の副委員長を拝命し、CBT 本試験、追再試験の試験監督、学生へのガイダンス、公募問題作成のための教員への説明会及び学内ブラッシュアップ作業を担当した。

その他学内業務：(旧) 3・4 号館から大学院棟への引越しに関して多くの時間を費やした。大学院棟の当該区画の設計、購入・移設機器の選定、引越しのスケジュールや手順についての検討、打ち合わせを行った。一部学生実習室についても検討した。教室員の尽力により、スムーズに引越しが済んだことに感謝している。他には、日本医科大学看護専門学校の「環境学」及び「保健医療学」講義を一部担当した。

その他学外活動：日本産業衛生学会関東地方会幹事、地方会ニュース編集委員を務めた。また、(財)労働科学研究所における作業環境測定士登録講習を一部担当した。

2) 今後の業務計画と到達目標

研究をより精力的に進め、まとめるべきものをまとめることに尽力したい。一方で、若い研究者が、研究に邁進できるよう、サポートと環境整備にも引き続き努力する。目標は、学外の教員公募に出して恥ずかしくない業績。

職名 講師 氏名 李 英姫 勤務期間 2002年6月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育、研究、社会活動、教室運営など）

教育面では、医学部第3学年講義の環境衛生学、疫学各論の一部（年間3コマ）を担当し、看護学校第2学年講義の環境学の一部（年間1コマ）を担当しています。また、医学部第3学年の実習、基礎配属の補助、2010年度の医学部第1学年医学入門チューターとして卒前教育活動にかかわっています。2012年度からは大学院生に対する指導など卒業教育にも務めています。また、本学における医学教育ワークショップに2回参加しました。

研究面では、環境要因による呼吸器疾患発症・増悪リスク評価、呼吸器障害の個体差、および化学的予防対策について、分子機構に基づいた検討を行い、その研究成果を国内・国際学会、および欧文原著として継続的に発表しており、大気汚染・呼吸器疾患に関する複数のレビューも発表しました。2008年度にはアメリカ合衆国ネブラスカ大学医療センターに留学し、肺疾患のリモデリング病態における細胞遊走、**epithelial-mesenchymal transition (EMT)**について研究し、その研究成果を踏まえて2009年度から、ディーゼル排気粒子による酸化ストレスの肺線維症病態への寄与に関する研究、およびその分子メカニズム解明について、科学研究費補助金基盤（C）研究代表者として **Nrf2** ノックアウトマウスを用いた研究を継続展開しています。さらに、2011年度から東京理科大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「環境と次世代健康科学－疾患原因解明と予防に向けた先進的研究」の共同研究者として、ディーゼル排気粒子による酸化ストレスの肺疾患リモデリング病態への作用メカニズムの解明、抗菌作用を持たないエリスロマイシン(**EM**)の新規誘導体の抗炎症、抗酸化作用に関する検討、およびディーゼル排気粒子の循環器への影響など新たな研究課題に取り組んでいます。

2009年度から2011年度まで環境省微小粒子状物質等毒性学文献レビューワークグループの委員として、文献レビュー作業に参加しました。また、本学呼吸器内科学の研究グループと、過去から現在にわたり、継続的共同研究活動を展開し、中華人民共和国の複数の医科大学との人的交流、学術的交流、および本学における国際交流に世話役として協力してきました。

2) 今後の業務計画と到達目標

学生が自ら問題を解決していく能力を身につけられるような基礎配属の課題と方法を探求し、2014年度からテーマを提出するよう計画したいと思います。

グローバル化する大気汚染、それによる健康被害に対する予防対策は今後の重要な課題となっており、呼吸器、循環器の炎症、リモデリング病態における環境要因の寄与度、および作用の分子メカニズムを解明し、科学的根拠に基づいた健康被害低減のための化学的予防対策に寄与できるような研究を目指しています。

職名 助教 氏名 勝又 聖夫 勤務期間 1982年4月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育、研究、社会活動、教室運営など）

教育：日本医大3学年 衛生学講義、実習及び基礎配属

日本医大6学年 社会医学講義

その他 他大学の非常勤講師、看護専門学校の非常勤講師

研究：唾液を用いた非喫煙者の受動喫煙のストレス評価

女性(特に妊産婦)に対する継続的な禁煙支援法の構築

社会活動：文京区の両親学級において、「受動喫煙の健康影響」についての講義

教室運営：学生教育に関する業務担当

2) 今後の業務計画と到達目標

教育：朝9時からの講義でも学生が積極的に来る魅力ある講義の構築

研究：我々がめざしている受動喫煙のストレス評価を客観的に示す指標が多く場で用いられるような方法論の確立と論文作成

社会活動：文京区での喫煙率(男性 27.9%、女性 10.0% 文京区 健康に関するニーズ調査報告書、平成24年3月より)が減少することを目標に

職名 助教 氏名 平田 幸代 勤務期間 1996年4月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育，研究，社会活動，教室運営など）

【教育】第3学年衛生学の講義、衛生学実習（いくつかの項目でサポートとして参加）、第3学年の基礎配属（食と予防医学というテーマで参加）を担当した。また、医学教育のためのFDワークショップに参加後、1年生および3年生SGLチューターを担当した。千葉北総看護専門学校での環境学の講義を担当した。

【研究】免疫細胞に存在する酵素であるグランザイム3の機能や役割を解明することを目標として、特異的な基質配列を決定するなどの基礎的な研究を進めている。また、共同研究として、グランザイム3のELISA測定法を確立するためのモノクローナル抗体の作製や条件検討などを行うとともに、培養細胞等におけるグランザイム3の測定を行っている。また、他の教室員のテーマにおいても共同研究として、NK活性測定やFACS測定、western blotやELISA測定、蛋白定量などでサポートを行っている。

【教室運営】教室内の実験に使用する水の管理として、純水および超純水製造装置のメンテナンスを行っている。また、一部ではあるが共通の消耗品等での使用感や価格についても配慮している。

2) 今後の業務計画と到達目標

研究において、培養細胞などを用いた基礎的なものも継続して行うとともに、動物や人のサンプルを用いた臨床的なものへと展開し、最終的には免疫に関する病態との関連について明らかにしたいと考えている。また、公衆衛生という予防的観点からもアプローチしていきたいと思う。

職名 助教 氏名 可知 悠子 勤務期間 2012年12年～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育、研究、社会活動、教室運営など）

前職（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学）では、教育については、大学院と学部で医学統計学、疫学、公衆衛生学の講義や実習を担当しました。特に、3年生における医療情報学実習の統括担当者として、全体のマネージメントを行いました。また、5年生における公衆衛生学実習では臨床試験や貧困と格差をテーマとするグループを担当し、学生の知識のみならず意識変容を促すような教育を行いました。さらに、FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として、学生による授業評価アンケートの回答傾向を分析して問題点を抽出し、アンケート項目について改善案を提出することで、大学運営に貢献しました。研究については、健康と医療の格差に関する経時的研究や、睡眠状況が生活習慣病の発症に及ぼす影響に関する研究を中心に行ってきました。社会活動としては、臨床心理士の資格を生かし、複数のNPO法人の活動において心の相談に従事してきました。

2) 今後の業務計画と到達目標

着任したばかりでわからないことも多いのですが、1日でも早く教室の仕事を覚え、貢献できればと考えております。講義や実習では、参加型体験型学習（ワークショップ、スモールグループディスカッションなど）を取り入れ、学生の知的好奇心を引き出し、主体的な参加を促すことが目標です。また、私の専門分野でかつ最近の重要トピックである“健康の社会的決定要因”や“健康と医療の格差”について学生が学ぶ機会を作り、社会意識の高い医師の育成に貢献したいと考えております。研究では、前職に引き続き、貧困や格差の是正に資する研究や適切な睡眠に資する研究に携わっていきたいと考えております。社会経済状況の悪い人は生活習慣が良くないというエビデンスが数多く出ておりますので、これまで行ってきた2つの研究分野をリンクさせ、貧困や格差が睡眠等の生活習慣にどのように影響するののかも検討する予定です。研究成果を英語論文として出すことに加え、政策決定者やメディア、他分野の研究者に伝え、活用していただくよう活動することが目標です。

| | | |
|--------------------------|------------------|----------------------|
| 職名 <u>テクニカル・スタッフ</u> | 氏名 <u>平田 紀美子</u> | 勤務期間 <u>1990年4月～</u> |
| 職名 <u>テクニカルサポート・スタッフ</u> | 氏名 <u>五月女 孝子</u> | 勤務期間 <u>1999年5月～</u> |
| 職名 <u>アシスタント・スタッフ</u> | 氏名 <u>小林 麻衣子</u> | 勤務期間 <u>2006年4月～</u> |

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育，研究，社会活動，教室運営など）

<教育>

第三学年で行われる衛生学実習や基礎配属においてレポートのチェックや学生の出欠確認など、教員の補助や学生指導を主な業務としてきました。また、講義においては学生の出欠確認や講義資料の作成などを担当しました。

<研究>

教員の様々な研究内容を各々サポートしており、研究に支障をきたさぬよう、実験室の管理として試薬管理等も行っています。また、自らが獲得した科学研究費で研究を行っており、学会においてその成果を発表しています。

<教室運営>

主に事務（伝票処理・会計・郵便・書類の提出・物品購入管理・実験室清掃・洗濯・教室又は教室員のスケジュール管理等）を担当し、円滑に教室内業務が進むよう教室員をサポートしています。

2) 今後の業務計画と到達目標

川田教授就任 10 年という節目を迎え、衛生学公衆衛生学の分野で教育はもちろん、研究においてもさらに発展していくよう、連携をとりながら教室のサポートに努めてまいりたいと思います。

職名 大学院生 氏名 加藤 活人 在籍期間 2011年4月～

1) 教授着任から現在までの、主な教室関連業務（教育，研究，社会活動，教室運営など）

平成 23 年度より現在まで環境医学分野（衛生学公衆衛生学）で大学院生として学ばせていただいています。前年まで日本医科大学循環器内科に所属し臨床診療をやってまいりましたが、もともと医学研究、特に疫学・予防医学にも興味があり本教室にて学ぶことを決めました。この 2 年間は臨床診療の場とは全く違った環境の中で医学研究の基礎を勉強しております。

循環器疾患および生活習慣病の発症を研究する循環器病疫学を広く学ぶなかで初年度は日本循環器病管理研究協議会主催の第 24 回日本循環病予防セミナーへ参加し、短期集中で循環器病疫学について充実した講義を受講し、実際に疫学研究のデザインを考えるなど実りのあるセミナーを経験させていただきました。また、大塚俊昭准教授を中心とした先生方のご指導のもと日本成人病（生活習慣病）学会、日本糖尿病学会、日本循環器学会へ演題を発表し、第 46 回日本成人病学会では会長賞をいただくことができました。

平成 24 年度からは李英姫講師をはじめとした先生方のご指導のもと、ディーゼル排気粒子の循環器への影響につき動物実験を始めております。動物実験及び基礎研究については今まで触れたことがなく不安がありましたが、先生方の丁寧なご指導のもと手取り足取り教えていただき、少しずつではありますが前進しているという実感がわいてきております。

2) 今後の業務計画と到達目標

疫学研究ではいままで学会等で発表してまいりました研究を卒業までにはすべて論文という形でまとめ、新たな研究も積極的に行っていきたいと思っております。また動物実験及び基礎研究については、結果としてまとめられるように進めていきたいです。

卒後どのような進路へ進んだとしても、現在の経験が生きるように精進してまいります。

業 績

原著論文

2003

- 1) Sreeja VG, Nagahara N, Li Q, Minami M: New aspects in pathogenesis Konzo: Neural cell damage directly caused by linamarin contained in cassava (*Manihot esculenta Crantz*). Br J Nutri 2003; 90(3): 467-472.
- 2) Okada S, Li Q, Whitin John C, Clayberger C, Krensky Alan M: Intracellular Mediators of Granulysin-Induced Cell Death. J Immunol 2003; 171(5): 2556-2562.
- 3) Kawada T, Ikagawa T, Ikeda E: Factors affecting bone mineral density in the general adult female population in Japan. Percept Mot Skills 2003; 97(3): 723-730.
- 4) 中台亜里, 稲垣弘文, 南正康, 高橋秀依, 南目梨江, 大沢基保, 池上四郎: 中国製ダイエット用健康食品中の *N*-nitrosufenfluramine の光学純度の決定. 薬学雑誌 2003; 123(9): 805-809.

2004

- 1) Kawada T: Risk factors and prevalence of asthma or atopic dermatitis in young children by a questionnaire survey. J Nippon Med Sch 2004; 71(3): 167-171.
- 2) Kawada T: Difference of body mass index stratified by the period of smoking cessation from a cross-sectional study. Arch Med Res 2004; 35(2): 181-184.
- 3) Kawada T: Smoking-induced leukocytosis can persist after the cessation of smoking. Arch Med Res 2004; 35(3): 246-250.
- 4) Kato K, Nakatani Y, Kanno H, Inayama Y, Ijiri R, Nagahara N, Miyake T, Tanaka M, Ito Y, Aida N, Tachibana K, Sekido K, Tanaka Y: Possible linkage between specific histological structures and aberrant reactivation of the Wnt pathway in adamantinomatous craniopharyngioma. J. Pathol 2004; 203(3): 814-821.
- 5) Kawada T: Health practices and survival among middle-aged residents in Japan: A ten-year follow-up cohort study in Gunma 9 towns' study. J Nippon Med Sch 2004; 71(4):242-251.
- 6) Kawada T: Comparison of daily life habits and health examination data between smokers and ex-smokers suggest that ex-smokers acquire several healthy-lifestyle practices. Arch Med Res 2004; 35(4): 329-333.
- 7) Li Q, Hirata Y, Kawada T, Minami M: Elevated frequency of sister chromatid exchanges of lymphocytes in sarin-exposed victims of the Tokyo sarin disaster 3 years after the event. Toxicology 2004; 201(1-3): 209-217.
- 8) Sasazawa Y, Kawada T, Kiryu Y, Suzuki S: The relationship between traffic noise and insomnia among adult Japanese women. J Sound Vib 2004; 277(3): 547-557.

- 9) Nagahara N, Sawada N, Nakagawa T: Affinity label of a catalytic site, Cysteine247 in rat mercaptopyruvate sulfurtransferase by chloropyruvate as an analog of a substrate. In special section on: Proteomics and Post-genomics. *Biochimie* 2004; 86(9-10): 723-729.
- 10) Nagahara N, Sreeja VG, Li Q, Shimizu T, Tsuchiya T, Fujii-Kuriyama Y: A point mutation in a silencer element markedly reduces promoter activity of the human mercaptopyruvate sulfurtransferase gene. *Biochim Biophys Acta* 2004; 1580(3): 176-184.
- 11) Li Q, Nakadai A, Takeda K, Kawada T: Dimethyl 2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP) markedly inhibits activities of natural killer cells, cytotoxic T lymphocytes and lymphokine-activated killer cells via the Fas-ligand/Fas pathway in perforin-knockout (PKO) mice. *Toxicology* 2004; 204(1): 41-50.

2005

- 1) Li Q, Dong C, Deng A, Katsumata M, Nakadai A, Kawada T, Okada S, Clayberger C, Krensky Alan M: Hemolysis of Erythrocytes by Granulysin-Derived Peptides but Not by Granulysin. *Antimicrob Agents Chemother* 2005; 49(1): 388-397.
- 2) Sawada N, Nagahara N, Sakai T, Nakajima Y, Minami M, Kawada T: The activation mechanism of human porphobilinogen synthase by 2-mercaptoethanol: intrasubunit transfer of a reserve zinc ion and coordination with three cysteines in the active center. *J Biol Inorg Chem* 2005; 10(2): 199-207.
- 3) Kawada T, Katsumata M, Suzuki H, Li Q, Inagaki H, Nakadai A, Shimizu T, Hirata K, Hirata Y: Insomnia as a sequela of sarin toxicity several years after exposure in Tokyo subway trains. *Percept Mot Skills* 2005; 100(3 Pt2): 1121-1126.
- 4) Li Q, Liang Z, Nakadai A, Kawada T: Effect of electric foot shock and psychological stress on NK, LAK and CTL activities, NK receptors and mRNA transcripts of granzymes and perforin. *Stress* 2005; 8(2): 107-116.
- 5) Kawada T, Suzuki S: Validation study on self-reported height, weight and blood pressure. *Percept Motor Skills* 2005; 101(1): 187-191.
- 6) Li Q, Nakadai A, Ishizaki M, Morimoto K, Ueda A, Krensky Alan M, Kawada T: Dimethyl 2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP) markedly decreases the expression of perforin, granzyme A and granulysin in human NK-92CI cell line. *Toxicology* 2005; 213(1-2): 107-116.
- 7) Nagahara N, Katayama A: Post-translational regulation of mercaptopyruvate sulfurtransferase via a low redox potential cysteine-sulfenate in the maintenance of redox homeostasis. *J Biol Chem* 2005; 280(41): 34569-34576.
- 8) Kawada T, Ooya M: Workload and health complaints in overtime workers: A survey. *Arch Med Res* 2005; 36(5): 594-597.
- 9) 若山葉子, 川田智之, 植田悠紀子: 定期住民健康診査成績からみたウイルス肝炎流行地

域の肝機能異常率の検討. 民族衛生 2005; 71(5): 219-226.

- 10) 勝又聖夫, 平田紀美子, 中台亜里, 稲垣弘文, 川田智之: 医学教育に用いることができるタバコ煙中の簡易なガス測定法の試み. 日本衛生学雑誌 2005; 60(3): 355-361.

2006

- 1) Li Y-J, Azuma A, Usuki J, Abe S, Matsuda K, Sunazuka T, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Kawada T, Takahashi S, Kudoh S, Omura S: EM703 improves bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice by the inhibition of TGF- β signaling in lung fibroblasts. *Respir Res* 2006; 7(1): 16.
- 2) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Li Q, Nagahara N, Minami M, Kawada T: Expression of enzymatically active human granzyme 3 in *Escherichia coli* for analysis of its substrate specificity. *Arch Biochem Biophys* 2006; 446(1): 35-43.
- 3) Kawada T, Otsuka T: Relations of body mass index and coronary risk as estimated by the Framingham risk score. *Percept Motor Skills* 2006; 102(1): 254-258.
- 4) Otsuka T, Kawada T, Katsumata M, Ibuki C: Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population. *Circ J* 2006; 70(3): 304-310.
- 5) Li Q, Nakadai A, Matsushima H, Miyazaki Y, Krensky AM, Kawada T, Morimoto K: Phytoncides (wood essential oils) induce human natural killer cell activity. *Immunopharmacol Immunotoxicol* 2006; 28(2): 319-333.
- 6) Kawada T, Otsuka T, Katsumata M, Suzuki H: Association between components of the metabolic syndrome and serum levels of C-reactive protein in Japanese workingmen. *J Cardiometab Syndr* 2006; 1(3): 168-172.
- 7) Kawada T, Suzuki S, Tsukioka T, Iesaki S: Factors associated with perceived health of very old inhabitants of Japan. *Gerontology* 2006; 52(4): 258-263.
- 8) Inagaki H, Minami M, Hirata K, Kawada T: A monoclonal antibody to hippuric acid: an improved enzyme-linked immunosorbent assay for biological monitoring of toluene exposure. *J Immunoassay Immunochem* 2006; 27(3): 213-223.
- 9) Nakadai A, Li Q, Kawada T: Chlorpyrifos induces apoptosis in human monocyte cell line U937. *Toxicology* 2006; 224(3): 202-209.
- 10) Kawada T, Okada K: The Metabolic Syndrome: Prevalence and Associated Lifestyles in Japanese Workingmen. *J Cardiometab Syndr* 2006; 1(5): 313-317.
- 11) Matsumoto A, Hiramatsu K, Li Y-J, Azuma A, Kudoh S, Takizawa H, Sugawara I: Repeated exposure to low-dose diesel exhaust after allergen challenge exaggerates asthmatic responses in mice. *Clin Immunol* 2006; 121(2): 227-235.

2007

- 1) Nagahara N, Yoshii T, Abe Y, Matsumura T: Thioredoxin-dependent enzymatic activation of mercaptopyruvate sulfurtransferase: An intersubunit disulfide bond serves as a redox switch of activation. *J Biol Chem* 2007; 282(3): 1561-1569.
- 2) Kawada T, Katsumata M, Suzuki H, Shimizu T: Actigraphic predictors of the depressive state in students with no psychiatric disorders. *J Affect Disord* 2007; 98(1-2): 117-120.
- 3) Li Q, Morimoto K, Nakadai A, Qu T, Matsushima H, Katsumata M, Shimizu T, Inagaki H, Hirata Y, Hirata K, Kawada T, Lu Y, Nakayama K, Krensky AM: Healthy lifestyles are associated with higher levels of perforin, granzysin and granzymes A/B-expressing cells in peripheral blood lymphocytes. *Prev Med* 2007; 44(2): 117-123.
- 4) Kawada T, Morihashi M, Ueda H, Shirato T: Body mass index of 23 or more is an independent risk factor for hypertension and/or hyperlipidemia in Japanese manufacturing workers. *Percept Motor Skills* 2007; 104(3): 733-738.
- 5) Li Q, Morimoto K, Nakadai A, Inagaki H, Katsumata M, Shimizu T, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H, Miyazaki Y, Kagawa T, Koyama Y, Ohira T, Takayama N, Krensky AM, Kawada T: Forest bathing enhances human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2007; 20(S2): 3-8.
- 6) Li Y-J, Kawada T, Matsumoto A, Azuma A, Kudoh S, Takizawa H, Sugawara I: Airway inflammatory responses to oxidative stress induced by low-dose diesel exhaust particle exposure differ between mouse strains. *Exp Lung Res* 2007; 33(5): 227-244.
- 7) Kawada T, Morihashi M, Ueda H, Shirato T: Neutrophil cell count is related to hypertension in workers: a cross-sectional study. *Vasc Dis Prev* 2007; 4(3): 225-228.
- 8) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Organophosphorus pesticides induce apoptosis in human NK cells. *Toxicology* 2007; 239(1-2): 89-95.
- 9) Otsuka T, Kawada T, Katsumata M, Ibuki C, Kusama Y: Independent determinants of second derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men. *Hypertens Res* 2007; 30(12): 1211-1218.
- 10) Kawada T, Otsuka T, Katsumata M, Suzuki H: Serum Uric Acid is significantly related to the components of the Metabolic Syndrome in Japanese workingmen. *J Cardiometab Syndr* 2007; 2(3): 158-162.

2008

- 1) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: DDVP markedly decreases the expression of granzyme B and granzyme 3/K in human NK cells. *Toxicology* 2008; 243(3): 294-302.
- 2) Li Q, Morimoto K, Kobayashi M, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H, Li YJ, Wakayama Y, Kawada T, Park BJ, Ohira T, Matsui N, Kagawa T, Miyazaki Y, Krensky AM:

- Visiting a forest, but not a city, increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2008; 21(1): 117-127.
- 3) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Relationships between percentage of forest coverage and standardized mortality ratios (SMR) of cancers in all prefectures in Japan. *Open Public Health J* 2008; 1(1): 1-7.
 - 4) Li Q, Morimoto K, Kobayashi M, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Hirata K, Shimizu T, Li YJ, Wakayama Y, Kawada T, Ohira T, Takayama N, Kagawa T, Miyazaki Y: A forest bathing trip increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins in female subjects. *J Biol Regul Homeost Agents* 2008; 22(1): 45-55.
 - 5) Li Y-J, Kawada T, Takizawa H, Azuma A, Kudoh S, Sugawara I, Yamauchi Y, Kohyama T: Airway inflammatory responses to oxidative stress induced by prolonged low-dose diesel exhaust particle exposure from birth differ between mouse BALB/c and C57BL/6 strains. *Exp Lung Res* 2008; 34(3): 125-139.
 - 6) 大塚俊昭, 川田智之, 北川裕子, 伊藤ヨシ子, 赤尾ますみ, 斉藤暁, 加藤貴雄: 「動悸」を訴える社員の対策: 電話伝送携帯型心電計を利用した健康管理の試み. *産業衛生学雑誌* 2008; 50(1): 1-3.
 - 7) 宗像亮, 小谷英太郎, 大塚俊昭, 石井健輔, 時田祐吉, 上村竜太, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次, 水野杏一: 冠動脈ベアメタルステント留置術後の再狭窄に関する検討: 血管内超音波の有用性. *日本心臓病学会誌* 2008; 1(1): 24-30.
 - 8) Kawada T, Shimizu T, Fujii A, Kuratomi Y, Suto S, Kanai T, Nishime A, Sato K, Otsuka Y: Activity and sleeping time monitored by an accelerometer in rotating shift workers. *Work* 2008; 30(2): 157-160.
 - 9) Kawada T, Amezawa M: Effects of Exercise and Serum Uric Acid on the Metabolic Syndrome for Japanese Workers. *Metab Syndr Relat Disord* 2008; 6(2): 137-141.
 - 10) Otsuka T, Kawada T, Katsumata M, Ibuki C, Kusama Y: High-sensitivity C-reactive protein is associated with the risk of coronary heart disease as estimated by the Framingham Risk Score in middle-aged Japanese men. *Int J Cardiol* 2008; 129(2): 245-250.
 - 11) Li YJ, Takizawa H, Azuma A, Kohyama T, Yamauchi Y, Takahashi S, Yamamoto M, Kawada T, Kudoh S, Sugawara I: Disruption of Nrf2 enhances susceptibility to airway inflammatory responses induced by low-dose diesel exhaust particles in mice. *Clin Immunol* 2008; 128(3): 366-373.
 - 12) Kawada T: Agreement rates for sleep/wake judgments obtained via accelerometer and sleep diary: A comparison. *Behavioral Research Methods* 2008; 40(4): 1026-1029.
 - 13) Kawada T, Okada K, Amezawa M: Components of the metabolic syndrome and lifestyle factors in Japanese male workers. *Metab Syndr Relat Disord* 2008; 6(4): 263-266.
 - 14) Kawada T, Suzuki S: Physical symptoms and psychological health status by the type of job.

Work 2008; 31(4): 397-403.

2009

- 1) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之: HCV 持続感染者における HCV コア抗原量の長期的観察. 肝臓 2009; 50(1): 35-37.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Chlorpyrifos induces apoptosis in human T cells. Toxicology 2009; 255(1-2): 53-57.
- 3) Okada K, Kurita A, Takase B, Otsuka T, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K: Effects of music therapy on autonomic nervous system activity, incidence of heart failure events, and plasma cytokine and catecholamine levels in elderly patients with cerebrovascular disease and dementia. Int Heart J 2009; 50(1): 95-110.
- 4) Minami M, Takahashi H, Inagaki H, Yamano Y, Onoue S, Matsumoto S, Sasaki T, Sakai K: Novel tryptamine-related substances, 5-sulphatoxydiacetyltryptamine, 5-hydroxydiacetyltryptamine, and reduced melatonin in human urine and the determination of those compounds, 6-sulphatoxymelatonin, and melatonin with fluorometric HPLC. J Chromatogr B 2009; 877(8-9): 814-822.
- 5) Kawada T, Wakayama Y, Katsumata M, Inagaki H, Otsuka T, Hirata Y, Li Y, Li Q: Patterns in self-rated health according to age and sex in a Japanese national survey, 1989-2004. Gend Med 2009; 6(1): 329-334.
- 6) Ueki N, Miyake K, Kusunoki M, Shindo T, Kawagoe T, Futagami S, Tsukui T, Inagaki H, Sakamoto C: Impact of quadruple regimen of clarithromycin added to metronidazole-containing triple therapy against Helicobacter pylori infection following clarithromycin-containing triple-therapy failure. Helicobacter 2009; 14(2): 91-99.
- 7) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C, Kusama Y: Obesity as an independent influential factor for reduced radial arterial wave reflection in a middle-aged Japanese male population. Hypertens Res 2009; 32(5): 387-391.
- 8) Li Y, Takizawa H, Azuma A, Kohyama T, Yamauchi Y, Kawada T, Kudoh S, Sugawara I: The effects of oxidative stress induced by prolonged low-dose diesel exhaust particle exposure on the generation of allergic airway inflammation differ between BALB/c and C57BL/6 mice. Immunopharmacol Immunotoxicol 2009; 31(2): 230-237.
- 9) Kawada T, Kuratomi Y, Kanai T: Lifestyle determinants of depressive feeling and a feeling of unhappiness among workers at a workplace: A study in Japan. Work 2009; 33(3): 255-260.
- 10) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C, Kusama Y: Relationship between job strain and radial arterial wave reflection in middle-aged male workers. Prev Med 2009; 49(2-3): 260-264.
- 11) Kawada T, Kuratomi Y, Kanai T, Suto S, Nihsime A, Koizumi M, Nakano N: Anthropometric obesity indices and metabolic syndrome in Japanese working men. Work 2009; 34(1): 89-94.

- 12) Li Q, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Hirata K, Shimizu T, Kawada T, Park B, Ohira T, Kagawa T, Miyazaki Y: Effect of phytoncide from trees on human natural killer cell function. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2009; 22(4): 951-959.
- 13) Kawada T, Muto K, Kanai T, Kuratomi Y: Prostate-specific antigen screening of workers under the age of 40 in Japan. *Cancer Epidemiol* 2009; 33(3-4): 309-310.
- 14) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Katsumata M: Relationship Between Two Indicators of Coronary Risk Estimated by the Framingham Risk Score and the Number of Metabolic Syndrome Components in Japanese Male Manufacturing Workers. *Metab Syndr Relat Disord* 2009; 7(5): 435-440.
- 15) Shibuya N, Mikami Y, Kimura Y, Nagahara N, Kimura H: Vascular endothelium expresses 3-mercaptopyruvate sulfur-transferase and produces hydrogen sulfide. *J Biochem* 2009; 146(5): 623-626.
- 16) 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 滝澤始, 吾妻安良太, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二, 砂塚敏明, 大村智: EM・EM703 はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する. *Jpn J Antibiot* 2009; 62 (Suppl. A): 9-12.
- 17) 勝又聖夫, 平田紀美子, 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之: 新しい素材を用いた唾液採取器具による唾液中のコチニン, コルチゾール, デヒドロエピアンドロステロン及びテストステロンの測定. *日本衛生学雑誌* 2009; 64(4): 811-816.

2010

- 1) Kawada T, Hirata K, Inagaki H, Otsuka T, Katsumata M: Significance of the 100-point scale to evaluate perceived tobacco dependence. *Work* 2010; 35(2): 183-189.
- 2) Hirata Y, Inagaki H, Kawada T: Recombinant human progranzyme 3 expressed in *Escherichia coli* for analysis of its activation mechanism. *Microbiol Immunol* 2010; 54(2): 98-104.
- 3) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M: Insulin resistance, as expressed by HOMA-R, is strongly determined by waist circumference or body mass index among Japanese working men. *Obes Res Clin Pract* 2010; 4(1): e9-e14.
- 4) Nishiyama Y, Ueda M, Katsura K, Otsuka T, Abe A, Nagayama H, Katayama Y: Asymmetric dimethylarginine (ADMA) as a possible risk marker for ischemic stroke. *J Neurol Sci* 2010; 290(1-2): 12-15.
- 5) Kawada T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Katsumata M: Serum insulin is significantly related to components of the metabolic syndrome in Japanese working men. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2010; 12(4): 309-314.
- 6) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Katsumata M, Wakayama Y, Kawada T, Ohira T, Matsui N, Kagawa T: A day trip to a forest park increases human natural killer activity and the expression of anti-cancer proteins in male subjects. *J Biol*

- Regul Homeost Agents 2010; 24(2): 157-167.
- 7) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C, Seino Y: Association between high-sensitivity cardiac troponin T levels and the predicted cardiovascular risk in middle-aged men without overt cardiovascular disease. *Am Heart J* 2010; 159(6): 972-978.
 - 8) Kawada T: Homeostasis model assessment of insulin resistance, an indicator of insulin resistance, is strongly related to serum insulin: practical data presentation and the mathematical basis. *Metabolism* 2010; 59(7): 1044-1046.
 - 9) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M: Association of smoking status, insulin resistance, body mass index, and metabolic syndrome in workers: a one-year follow-up study. *Obes Res Clin Pract* 2010; 4(3): e163-e169.
 - 10) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y: Association of hematological parameters and uric acid with clustered components of metabolic syndrome among Japanese male workers. *Diabetes Metab Syndr* 2010; 4(3): 165-167.
 - 11) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C, Kusama Y: Radial arterial wave reflection is associated with the MEGA risk prediction score, an indicator of coronary heart disease risk, in middle-aged men with mild to moderate hypercholesterolemia. *J Atheroscler Thromb* 2010; 17(7): 688-694.
 - 12) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y: A cross-sectional study on the shift work and metabolic syndrome in Japanese male workers. *Aging Male* 2010; 13(3):174-178.
 - 13) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M: Increasing in the prevalence of metabolic syndrome among workers according to age. *Aging Male* 2010; 13(3): 184-187.
 - 14) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M: A cross-sectional study on lifestyles and the metabolic syndrome (MetS) components mainly targeting glucose metabolism in Japanese working men. *Diabetes Metab Syndr* 2010; 4(4): 230-233.
 - 15) Otsuka T, Kawada T, Seino Y, Ibuki C, Katsumata M, Kodani E: Relation of smoking status to serum levels of N-terminal pro-brain natriuretic peptide in middle-aged men without overt cardiovascular disease. *Am J Cardiol* 2010; 106(10): 1456-1460.
 - 16) Li Y, Takizawa H, Azuma A, Kohyama T, Yamauchi Y, Takahashi S, Yamamoto M, Kawada T, Kudoh S, Sugawara I: Nrf2 is closely related to allergic airway inflammatory responses induced by low-dose diesel exhaust particles in mice. *Clin Immunol* 2010; 137(2): 234-241.
 - 17) Kawada T, Ueda H, Hayashi M, Sakamoto A, Uchida K, Shirato T, Etoh R: Relationship among workload, health complaints, and depressive state of workers as revealed using a questionnaire survey. *Work* 2010; 37(4): 333-339.

- 1) Kawada T, Suzuki S: Marital Status and Self-Rated Health in Rural Inhabitants in Japan: A Cross-Sectional Study. *J Divorce & Remarriage* 2011; 52(1): 48-54.
- 2) Kusama Y, Kodani E, Nakagomi A, Otsuka T, Atarashi H, Kishida H, Mizuno K: Variant Angina and Coronary Artery Spasm: The Clinical Spectrum, Pathophysiology, and Management. *J Nippon Med Sch* 2011; 78(1): 4-12.
- 3) Li Y, Wang X, Sato T, Kanaji N, Nakanishi M, Kim M, Michalski J, Nelson A, Sun J, Farid M, Basma H, Patil A, Toews M, Liu X, Rennard S: Prostaglandin E2 Inhibits Human Lung Fibroblast Chemotaxis through Disparate Actions on Different E-Prostanoid Receptors. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2011; 44(1): 99-107.
- 4) Kawada T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y, Otsuka T: Depressive state and subsequent weight gain in workers: A 4-year follow-up study. *Work* 2011; 38(2): 123-127.
- 5) Kawada T, Shimizu T, Kuratomi Y, Suto S, Kanai T, Nishime A, Nakano N: Monitoring of the sleep patterns of shift workers in the automotive industry. *Work* 2011; 38(2): 163-167.
- 6) Nishiyama Y, Ueda M, Otsuka T, Katsura K, Abe A, Nagayama H, Katayaka Y: Statin treatment decreased serum asymmetric dimethylarginine (ADMA) levels in ischemic stroke patients. *J Atheroscler Thromb* 2011; 18(2): 131-137.
- 7) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M: Optimal cut-off levels of body mass index and waist circumference to predict each component of metabolic syndrome (MetS) and the number of MetS component. *Diabetes Metab Syndr* 2011; 5(1): 25-28.
- 8) 川田智之, 稲垣弘文, 笹澤吉明, 田村祐司, 鈴木庄亮: 環七沿いのホテルで収録した道路交通騒音の睡眠影響. *睡眠と環境* 2011; 8(1): 3-7.
- 9) Kawada T, Shimizu T, Kuratomi Y, Suto S, Kanai T, Nishime A, Nakano N: Monitoring of the sleep patterns of shift workers in the automotive industry. *Work* 2011; 38(2): 163-167.
- 10) Kawada T, Inagaki H, Kuratomi Y: The Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT): reliability study of the Japanese version. *Alcohol* 2011; 45(3): 205-207.
- 11) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y: Relationship among lifestyles, aging and psychological wellbeing using the general Health Questionnaire 12-items (GHQ12) in Japanese working men. *Aging Male* 2011; 14(2): 115-118.
- 12) Kawada T, Kuratomi Y, Kanai T: Depressive feelings, feelings of unhappiness, and subsequent psychological wellbeing among workers. *Work* 2011; 39(3): 315-319.
- 13) Kawada T, Otsuka T, Endo T, Kon Y: Prevalence of the metabolic syndrome and its relationship with diabetes mellitus by aging. *Aging Male* 2011; 14(3): 203-206.
- 14) Kawada T, Suzuki S: Cadmium, copper, and zinc in carrots in Japan. *Toxicol Environ Chem* 2011; 93(10): 1956-1959.
- 15) Kawada T, Otsuka T: Relationship between job stress, occupational position and job satisfaction using a brief job stress questionnaire (BJSQ). *Work* 2011; 40(4): 393-399.

- 16) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Sato S, Ishizaki M, Okamura A, Wang D, Nakajima T, Kamijima M, Kawada T: Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on splenic cell populations and histopathological alterations in spleen in Wistar rats. *Hum Exp Toxicol* 2011; 30(7): 665-674.
- 17) Li Q, Otsuka T, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Kawada T, Kagawa T: Acute effects of walking in forest environments on cardiovascular and metabolic parameters. *Eur J Appl Physiol* 2011; 111(11): 2845-2853.
- 18) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Ziram induces apoptosis and necrosis in human immune cells. *Arch Toxicol* 2011; 85(4): 355-361.
- 19) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Hirata K, Shimizu T, Wang R, Suda M, Kawamoto T, Nakajima T, Kawada T: Effects of subchronic inhalation exposure to ethyl tertiary butyl ether on splenocytes in mice. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2011; 24(4): 837-847.
- 20) 大塚俊昭, 川田智之, 矢内美雪, 北川裕子, 菅裕彦: 一職域男性集団におけるメタボリックシンドロームの発症率およびメタボリックシンドローム発症に関連する生活習慣因子の検討. *産業衛生学雑誌* 2011; 53(3): 78-86.
- 21) Kodani E, Otsuka T, Kusama Y, Atarashi H: Beneficial effect of cilnidipine on morning hypertension: evaluation by home monitoring and ambulatory blood pressure monitoring. *Ther Res* 2011; 32(7): 925-935.
- 22) Sawada N, Nagahara N, Arisaka F, Mitsuoka K, Minami M: Redox and metal-regulated oligomeric state for human porphobilinogen synthase activation. *Amino Acids* 2011; 41(1): 173-180.
- 23) Jurkowska H, Placha W, Nagahara N, Wrobel M: The expression and activity of cystathionine- γ -lyase and 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase in human neoplastic cell lines. *Amino Acids* 2011; 41(1): 151-158.
- 24) Mikami Y, Shibuya N, Kimura Y, Nagahara N, Ogasawara Y, Kimura H: Thioredoxin and dihydrolipoic acid are required for 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase to produce hydrogen sulfide. *Biochem J* 2011; 439(3): 479-485.
- 25) Mikami Y, Shibuya N, Kimura Y, Nagahara N, Yamada M, Kimura H: Hydrogen sulfide protects the retina from light-induced degeneration by the modulation of Ca^{2+} influx. *J Biol Chem* 2011; 286(45): 39379-39386.
- 26) Kanaji N, Sato T, Nelson A, Wang X, Li Y, Kim M, Nakanishi M, Basma H, Michalski J, Farid M, Chandler M, Pease W, Patil A, Rennard S, Liu X: Inflammatory cytokines regulate endothelial cell survival and tissue repair functions via NF- κ B signaling. *J Inflamm Res* 2011; 4: 127-138.
- 27) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li YJ, Katsumata M: Serum insulin is significantly related to components of the metabolic syndrome in Japanese working women. *Diabetes Metab Syndr* 2011; 5(4): 188-190.

2012

- 1) Kawada T, Otsuka T, Endo T, Kon Y: Aging, components of metabolic syndrome and serum C-reactive protein showed significant relationship with carotid atherosclerosis. *Aging Male* 2012; 15(1): 42-47.
- 2) Kawada T, Hasegawa M: Predictive ability of serum high-molecular-weight adiponectin in combination with serum insulin and serum C-reactive protein for the presence of metabolic syndrome. *Ann Hum Biol* 2012; 39(2): 108-112.
- 3) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Effect of ziram on natural killer, lymphokine-activated killer, and cytotoxic T lymphocyte activity. *Arch Toxicol* 2012; 86(3): 475-481.
- 4) Kawada T: Predictors of the development of metabolic syndrome in male workers: a 3-year follow-up study. *J Occup Environ Med* 2012; 54(3): 292-295.
- 5) Minami M, Takahashi H, Sasaki T, Matsumoto S, Sakai K, Inagaki H, Yamano Y, Miyake H: The effect of sleep restriction and psychological load on the diurnal metabolic changes in tryptamine-related compounds in human urine. *Environ Health Prev Med* 2012; 17(2): 87-98.
- 6) Kanaji N, Nelson A, Allen-Gipson D, Sato T, Nakanishi M, Wang X, Li Y, Basma H, Michalski J, Farid M, Rennard S, Liu X: The p38 mitogen-activated protein kinases modulate endothelial cell survival and tissue repair. *Inflamm Res* 2012; 61(3): 233-244.
- 7) Kawada T, Yoshimura M: Results of a 100-point scale for evaluating job satisfaction and the Occupational Depression Scale Questionnaire survey in workers. *J Occup Environ Med* 2012; 54(4): 420-423.
- 8) Kawada T, Yamada N: 100-point scale evaluating job satisfaction and the results of the 12-item General Health Questionnaire in occupational workers. *Work* 2012; 42(3): 415-418.
- 9) Kawada T: Relationship between several markers and presence of metabolic syndrome or components of the metabolic syndrome in Japanese workers. *J Occup Environ Med* 2012; 54(8): 984-988.
- 10) Kawada T, Suzuki H, Shimizu T, Katsumata M: Agreement in regard to total sleep time during a nap obtained via a sleep polygraph and accelerometer: A comparison of different sensitivity thresholds of the accelerometer. *Int J Behav Med* 2012; 19(3): 398-401.
- 11) Kawada T, Otsuka T: Psychological wellbeing using the 12-item General Health Questionnaire (GHQ12) and age in Japanese working men. *J Psychiatr Ment Health Nurs* 2012; 19(8): 758-760.
- 12) Kawada T: Feeling refreshed by sleep can predict psychological wellbeing assessed using the General Health Questionnaire in male workers: a 3-year follow-up study. *Psychiatry Invest* 2012; 9(4): 418-421.
- 13) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Mechanism of ziram-induced apoptosis in human T lymphocytes. *Arch Toxicol* 2012; 86(4): 615-623.

- 14) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Mechanism of ziram-induced apoptosis in human natural killer cells. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2012; 25(4): 883-891.
- 15) 王 瑞生, 須田 恵, 大谷勝己, 翁 祖銓, 北條理恵子, 柳場由絵, 李 卿, 那須民江: 健康被害が懸念される産業化学物質の毒性評価に関する研究序論. 労働安全衛生総合研究所 特別研究報告 2012; 42(4): 147-153.
- 16) 李 卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 平田幸代, 平田紀美子, 清水孝子, 王 瑞生, 須田 恵, 川田智之: 亜慢性 ETBE 吸入ばく露によるマウス脾臓細胞への影響. 労働安全衛生総合研究所 特別研究報告 2012; 42(2): 163-170.
- 17) Reale M, Boscolo P, Bellante V, Tarantelli C, Di Nicola M, Forcella L, Li Q, Morimoto K, Muraro R: Daily intake of *Lactobacillus casei* Shirota increases natural killer cell activity in smokers. *Br J Nutr* 2012; 108(2): 308-314.
- 18) Nagano M, Liu M, Inagaki H, Kawada T, Suzuki H: Early intervention with fluoxetine reverses abnormalities in the serotonergic system and behavior of rats exposed prenatally to dexamethasone. *Neuropharmacology* 2012; 63(2): 292-300.
- 19) 宗像 亮, 大塚俊昭, 梅田宗紀, 加藤活人, 雪吹周生, 清野精彦: オシロメトリック法による上腕動脈面積測定の実現性および正確性に関する検討. *Ther Res* 2012; 30(11): 1701-1709.
- 20) Inami T, Seino Y, Otsuka T, Tamamoto M, Kimata N, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K: Links between sleep disordered breathing, coronary atherosclerotic burden, and cardiac biomarkers in patients with stable coronary artery disease. *J Cardiol* 2012; 60(3): 180-186.
- 21) Ibuki C, Seino Y, Otsuka T, Kimata N, Inami T, Munakata R, Mizuno K: Switching to pitavastatin in statin-treated low HDL-C patients further improves the lipid profile and attenuates minute myocardial damage. *J Clin Med Res* 2012; 4(6): 385-392.

2013

- 1) Kawada T, Otsuka T: Factor structure of indices of the second derivative of the finger photoplethysmogram in combination with metabolic components and other cardiovascular risk indicators. *Diabetes Metab J* 2013; 37(1): 40-45.
- 2) Kawada T, Otsuka T, Endo T, Kon Y: Number of components of the metabolic syndrome, smoking and inflammatory markers. *Int J Endocrinol Metab* 2013; 11(1): 23-26.
- 3) Li YJ, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Takizawa H, Azuma A, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S, Sunazuka T, Omura S. EM, EM703 inhibit NF- κ B activation induced by oxidative stress from diesel exhaust particle in human bronchial epithelial cells: importance in IL-8 transcription. *Pulm Pharmacol Ther* 2013; 26(3): 318-324.
- 4) Kobayashi K, Ikeda Y, Asada M, Inagaki H, Kawada T, Suzuki H. Corticosterone facilitates

fluoxetine-induced neuronal plasticity in the hippocampus. *PLoS One* 2013; 8(5): e63662.

総説

2003

- 1) Nagahara N, Li Q, Sawada N: Do antidotes for acute cyanide poisoning act on mercaptopyruvate sulfur-transferase to facilitate detoxication ? *Curr Drug Targets Immune Endocr Metabol Disord* 2003; 3(3): 198-204.

2004

- 1) Kawada T: The effect of noise on the health of children. *J Nippon Med Sch* 2004; 71(1): 5-10.

2005

- 1) 川田智之, 鈴木庄亮, 笹澤吉明: 騒音の睡眠影響に関するこれまでの研究と今後の課題. *航空環境研究* 2005(特別号): 11-15.

2006

- 1) Nagahara N, Sawada N: The mercaptopyruvate pathway in cysteine catabolism: A physiologic role and related disease of the multifunctional 3 mercaptopyruvate sulfurtransferase. *Curr Med Chem* 2006; 13(10): 1219-1230.
- 2) Li Q, Kawada T: The mechanism of organophosphorus pesticide-induced inhibition of cytolytic activity of killer cells. *Cell Mol Immunol* 2006; 3(3): 171-178.

2007

- 1) Li Q: New mechanism of organophosphorus pesticide-induced immunotoxicity. *J Nippon Med Sch* 2007; 74(1): 70-73.
- 2) Li Q: New mechanism of organophosphorus pesticide-induced immunotoxicity. *J Nippon Med Sch* 2007; 74(2): 92-105.
- 3) 李卿: 森林セラピーによる免疫能の向上. *農林水産技術研究ジャーナル* 2007; 30(7): 34-39.

2008

- 1) 李卿: 森林浴の生体免疫機能への効果. *日本医事新報* 2008; (4389): 66-68.
- 2) 李卿: 森林浴による女性看護師の免疫機能への効果. *Aroma Research* 2008; 19(3): 249-251.
- 3) 李卿: 森林浴の抗がん免疫機能への効果. *労働の科学* 2008; 63(8): 26-30.
- 4) 李卿, 香川隆英: 森林浴が働く女性の免疫機能を高める. *季刊 森林総研* 2008; 3: 8-9.
- 5) Nagahara N: A novel thioredoxin-dependent redox-sensing molecular switch of mercaptopyruvate

sulfur-transferase: maintenance of cellular redox equilibrium. *Mini Rev Med Chem* 2008; 8(6): 585-589.

2009

- 1) 李英姬: 大気汚染と気管支喘息: 発症要因になるか? 呼吸器科 2009; 15: 474-478.
- 2) Nagahara N, Matsumura T, Okamoto R, Kajihara Y: Protein cysteine modifications: (1) Medical chemistry for proteomics. *Curr Med Chem* 2009; 16(33): 4419-4444.
- 3) Nagahara N, Matsumura T, Okamoto R, Kajihara Y: Protein cysteine modifications: (2) Reactivity specificity and topics of medical chemistry and protein engineering. *Curr Med Chem* 2009; 16(34): 4490-4501.
- 4) Li Q: Effect of forest bathing trips on human immune function. *Environ Health Prev Med* 2010; 15(1): 9-17.
- 5) 李卿: 森林浴の効果. *Anti-aging Medicine* 2009; 5(3): 362-367.
- 6) 李卿: 森林浴の免疫機能に及ぼす効果. *日本温泉気候物理医学会雑誌* 2009; 73(1): 22-23.
- 7) 李卿: 森がもたらす現代人の健康. *登山医学* 2009; 29(1): 10-14.

2010

- 1) Li Y, Takizawa H, Kawada T: Role of oxidative stresses induced by diesel exhaust particles in airway inflammation, allergy and asthma: their potential as a target of chemoprevention. *Inflamm Allergy Drug Targets* 2010; 300(4): 305-309.

2011

- 1) Kawada T: Noise and Health -Sleep Disturbance in Adults. *J Occup Health* 2011; 53(6): 413-416.
- 2) 李卿, 川田智之: 環境因子が生体の免疫機構に及ぼす影響; プラス影響とマイナス影響の視点から. *職業・環境アレルギー誌* 2011; 18(2): 35-47.
- 3) 李卿: 第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京) での森林医学研究会による企画シンポジウムに関連した特集について. *日本衛生学雑誌* 2011; 66(4): 643-644.
- 4) 李卿, 川田智之: 森林セラピーによる「精神心理・神経系—内分泌系—免疫系」ネットワークへの影響. *日本衛生学雑誌* 2011; 66(4): 645-650.
- 5) Li Q, Kawada T: Effect of forest environments on human natural killer (NK) activity. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2011; 24(1 Suppl): 39-44.
- 6) Nagahara N: Intermolecular disulfide bond to modulate protein function as a redox-sensing switch. *Amino Acids* 2011; 41(1): 59-72.
- 7) Wrobel M, Stipanuk M, Nagahara N: Sulfur- and seleno-containing amino acids. *Amino Acids* 2011; 41(1): 1-2.
- 8) Nagahara N: Catalytic site cysteines of thiol Enzymes; Sulfurtransferases. *J Amino Acids* 2011;

2011: 1-7.

2012

- 1) 今井通子, 宮崎良文, 李 卿: 理想の最期; 山で死にたくない. 日本臨床生理学会雑誌 2012; 42(1): 1-21.
- 2) 大塚俊昭, 清野精彦: ストレスをバイオマーカーで知る (特集; 災害時における循環器診療 -どう立ち向かうか-). *Heart View* 2012; 16(7): 714-721.

レターその他

2005

- 1) Kawada T, Katsumata M, Suzuki H, Shimizu T: Oxygenation in the artery during nap sleep. *Sleep Med* 2006; 7(1): 87.

2008

- 1) 平田紀美子, 坂口眞弓: 『薬と健康の週間』での薬剤師会活動と役割について. *都薬雑誌* 2008; 30(7): 51-58.
- 2) Kawada T, Inagaki H, Suzuki S: Sleep duration and body mass index. *Sleep Med* 2008; 9(7): 808.

2009

- 1) Kawada T, Kuratomi Y: Depression among Japanese auto workers. *Int J Occup Environ Health* 2009; 15(2): 238-239.
- 2) Kawada T, Suzuki S: Relationship between self-rated health and depressive state of the old inhabitants. *Psychogeriatrics* 2009; 9(3): 151-152.
- 3) 川田智之: メタボを予防する; 生活習慣を見直そう. *日医大医学会誌* 2009; 5(3): 176-177.

2010

- 1) Otsuka T, Kawada T: Validity of using body mass index as a surrogate measure of abdominal obesity. *Circ J* 2010; 74(2): 383.
- 2) Kawada T: Monitoring of activity by wrist accelerometer in patients with atopic dermatitis. *Clin Exp Dermatol* 2010; 35(2): 193-194.
- 3) Kawada T, Wakayama Y, Watanabe R: Biological markers, lifestyle factors, and metabolic syndrome. *Metabolism* 2010; 59(3): 454-455.
- 4) Kawada T: Seasonal change of total sleep time and open air temperature. *Int J Biometeorol* 2010; 54(5): 489.
- 5) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C, Seino Y: Elevation of high-sensitivity cardiac troponin T and composite end points in randomized trials; Author reply. *Am Heart J* 2010; 160(6): e49.
- 6) Kawada T, Otsuka T: Framingham Hypertension Risk Score; the prevalence estimation of hypertension after one year in the population. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2010; 12(10): 814-815.
- 7) Kawada T: Waist-height ratio, indicator of central obesity, is strongly related to waist circumference but there is poor additional information regarding waist circumference. *Circ J* 2010; 74(11): 2501.

2011

- 1) Kawada T: The association between physical data, mental status and blood rheology in special emphasis on smoking status, depressive state, and blood viscosity. *Circ J* 2011; 75(5): 1282.
- 2) Kawada T: Overtime Working Hours and Depression; Questionnaire Survey Using the Patient Health Questionnaire (PHQ-9). *Chronobiol Int* 2011; 28(5): 474-475.
- 3) Kawada T: Comment to “Risk factors for serum alanine aminotransferase elevation; A cross-sectional study of healthy adult males in Tokyo, Japan”. *Dig Liver Dis* 2011; 43(8): 665-666.
- 4) Kawada T, Suzuki S: Mortality by cerebro-/cardio-vascular disease among middle-aged residents in Japan. *Int J Cardiol* 2011; 150(3): 360-361.
- 5) Kawada T: Prevalence of asthma in young children. *J Allergy Clin Immunol* 2011; 128(2): 432-433.
- 6) Kawada T, Otsuka T, Endo T, Kon Y: The metabolic syndrome, smoking, inflammatory markers and obesity. *Int J Cardiol* 2011; 151(3): 367-368.
- 7) Kawada T: Accuracy of wrist accelerometer during nap sleep in subjects with a variety of sleep efficiencies. *J Pain Symptom Manage* 2011; 42(3): e9-e10.
- 8) Kawada T: Liver enzymes, metabolic syndrome, and insulin resistance. *J Diabetes* 2011; 3(3): 182-183.
- 9) Kawada T: Multiple factors are required for the prediction of metabolic syndrome. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 2011; 38(10): 724.
- 10) Kawada T: The appropriate number of endpoints to keep validity for Cox proportional hazard analysis. *Int J Cardiol* 2011; 153(1): 110-111.
- 11) Kawada T: Heart rate variability during nap sleep. *Cardiol Young* 2011; 21(6): 716-717.
- 12) Kawada T: Difficulties encountered by diabetic workers in a company trying to stop smoking. *J Diabetes* 2011; 3(4): 317.
- 13) Kawada T, Suzuki S: Attention of salt awareness to prevent hypertension in the young. *J Clin Hypertens* 2011; 13(12): 933-934.
- 14) Kawada T, Suzuki S: Depressive state, aging and prevalence of snacking; a preliminary study. *Psychogeriatrics* 2011; 11(4): 247-248.
- 15) 川田智之: 自覚的健康度の規定要因. *日医大医会誌* 2011; 7(2): 106.

2012

- 1) Kawada T, Suzuki H, Shimizu T, Katsumata M: Polygraphic sleep latency and subjective sleepiness by visual analog scale (VAS); the limitation of VAS. *Appl Ergon* 2012; 43(1): 266.

- 2) Kawada T: The handling of absolute values of activity counts by actigraphy. *J Neurol Sci* 2012; 312(1-2): 194.
- 3) Kawada T: Effect of metabolic components on the incidence of cerebrovascular/cardiovascular disease among male workers in Japan; 3-year follow-up study. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2012; 14(1): 67.
- 4) Kawada T: Some caution when conducting long-term follow-up study on cardiovascular mortality. *Circ J* 2012; 76(2): 520.
- 5) Kawada T: Sleep duration, sleep quality and cardiovascular risk. *Eur Heart J* 1 February, 2012.
- 6) Kawada T: Serum uric acid and ischemic heart disease incidence. *Int J Cardiol* 2012; 154(3): 381.
- 7) Kawada T: Inflammatory and anti-inflammatory indicators as predictive biomarkers of metabolic syndrome. *Int J Cardiol* 2012; 155(2): 285-286.
- 8) Kawada T: Sample size in receiver operating characteristic (ROC) curve analysis. *Circ J* 2012; 76(3): 768.
- 9) Kawada T: Is there any ethnic difference in the prevalence of prediabetes? *Am J Clin Pathol* 2012; 137(3): 500-501.
- 10) Kawada T: Validation of sex difference in the trend of carotid artery intima media thickness by the number of metabolic components; Is this a result related to occupational factors? *J Occup Environ Med* 2012; 54(3): 273-274.
- 11) Kawada T: Random blood glucose measurement for epidemiological studies; its significance and limitations. *Curr Med Res Opin* 2012; 28(3): 447-448.
- 12) Kawada T: Physical activity and coronary heart disease. *Eur Heart J* 27 March, 2012.
- 13) Kawada T: Income poverty and cardiovascular disease. *Int J Cardiol* 2012; 156(1): 97-98.
- 14) Kawada T: Serum C-reactive protein and carotid intima-media thickness. *Int J Cardiol* 2012; 156(2): 221-222.
- 15) Kawada T: Correlation between psychological distress and C-reactive protein. Comment on Puustinen et al., Psychological distress and C-reactive protein; do health behaviours and pathophysiological factors modify the association? (*Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2011; 261; 277-84). *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2012; 262(3): 269-270.
- 16) Kawada T: Trend in the Number of Registrations for Neuroblastoma in Japan. *Jpn J Clin Oncol* 2012; 42(4): 357-358.
- 17) Kawada T: Oxidative stress markers and cardiovascular disease; advantage of risk assessment in combination with lifestyle factors. *Int J Cardiol* 2012; 157(1): 119-120.
- 18) Kawada T: Questionnaire survey on depression for patients with heart failure; validation for selecting appropriate cut-off points. *Int J Cardiol* 2012; 157(2): 275.
- 19) Kawada T: Analyses of cadmium and kidney function in lead workers should be adjusted for lead. *Occup Environ Med* 2012; 69(6): 452-453.

- 20) Kawada T: Correlation with statistical significance and its explanation rate; comment on Minelli et al., BDNF serum levels, but not BDNF Val66Met genotype, are correlated with personality traits in healthy subjects. (Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci doi; 10. 1007/s00406-011-0189-3). Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci 2012; 262(4): 361-362.
- 21) Kawada T: Relationship between subjective sleep duration and psychological wellbeing is modified by perception of sleep. Sleep Med 2012; 13(6): 772-773.
- 22) Kawada T: Comment on the changes of blood glucose control and lipid profiles after short-term smoking cessation in healthy males. Psychiatry Invest 2012; 9(2): 195-196.
- 23) Kawada T: Adiponectin and arterial stiffness in hypertensive patients. Int J Cardiol 2012; 157(3): 407-408.
- 24) Kawada T: Quality of sleep, sleep duration and depressive state. J Clin Hypertens (Greenwich) 2012; 14(7): 479.
- 25) Kawada T: Occupational class as the indicator of socioeconomic position. Occup Environ Med 2012; 69(8): 606-607.
- 26) Kawada T: Reynolds Risk Score as a Risk Assessment Tool for Cardiovascular Disease after 10 Years; Its Strong Relationship with the Blood Pressure. J Clin Hypertens (Greenwich) 2012; 14(8): 571-572.
- 27) Kawada T: Relationship between sleep and glucose homeostasis; Type of sleep parameters and causality. Fam Pract 14 August, 2012.
- 28) Kawada T: Occupational grade and effort-reward imbalance contribute to the onset of severe depressive symptom. Eur J Public Health 15 August, 2012.
- 29) Kawada T, Li Q, Inagaki H: Predictive ability of granzyme B for cardiovascular disease and its direction in change. J Cardiol 2012; 60(2): 150.
- 30) Kawada T: Letter; Prevalence and Correlates of Disordered Sleep in Southeast Asian Indians with Type 2 Diabetes (Diabetes Metab J 2012; 36; 70-6). Diabetes Metab J 2012; 36(4): 314-315.
- 31) Kawada T: Receiver operating characteristic curve analysis, sensitivity comparison and individual difference. Clin Radiol 2012; 67(9): 940.
- 32) Kawada T: Physical activity, obesity and insulin resistance. Int J Cardiol 2012; 159(3); 237-238.
- 33) Kawada T: Type of shift work is a key factor on the association between personality traits and psychological health. Appl Ergon 2012; 43(6): 1138.
- 34) Kawada T: Application of Reynolds Risk Score for younger generation with different ethnicities. Lupus 2012; 21(11): 1257.
- 35) Kawada T: Needed number of events for logistic regression analysis. Ann Rheum Dis 3 September, 2012.
- 36) Kawada T: Risk of cataract for patients with diabetes mellitus. Br J Ophthalmol 24 October, 2012.

- 37) Kawada T: Reply to; subclinical renal dysfunction is independently associated with cardiovascular events in rheumatoid arthritis; the CARRE Study. *Ann Rheum Dis* 2012; 71(12): e3.
- 38) Kawada T: Differences in left and right carotid intima-media thickness. *Clin Radiol* 2012; 67(11): 1127.
- 39) Kawada T: Re; Diagnostic performance of PWI/DWI MRI parameters in discriminating hyper-acute versus acute ischaemic stroke; Finding the best thresholds. *Clin Radiol* 2012; 67(12): 1218.
- 40) Kawada T: Predictive ability of sleep duration for the feeling of being refreshed by sleep. *J Occup Environ Med* 2012; 54(11): 1321-1322.
- 41) Kawada T: Ecological and individual association; Difficulty for adjusting ethnic difference of adiponectin in meta-analysis. *Int J Obes* 2012; 36(11): 1482.
- 42) Kawada T: Re; Association between psychological distress and mortality; individual participant pooled analysis of 10 prospective cohort studies. *BMJ* 7 October, 2012.
- 43) Kawada T: Re; Melatonin for sleep problems in children with neurodevelopmental disorders; randomised double masked placebo controlled trial. *BMJ* 27 November, 2012.
- 44) Kawada T: Prevalence of asthma and atopic dermatitis in children with special emphasis on birth order. *Pediatr Allergy Immunol* 2012; 23(8): 795.
- 45) Kawada T: Risk assessment for earthquake-exposed survivors; evaluation of generation difference. *Disaster Med Public Health Prep* 2012; 6(4): 325.

2013

- 1) Kawada T: Objective sleep variables of children with special emphasis on cut-off value of sensitivity for actigraphy. *J Paediatr Child Health* 2013; 49(1): 81-82.
- 2) Kawada T: Are general health checkups ineffective for reducing mortality? *BMJ* 20 January, 2013.
- 3) Kawada T: Comment on; Pan et al. Bidirectional Association Between Depression and Metabolic Syndrome; A Systematic Review and Meta-analysis of Epidemiological Studies. *Diabetes Care* 2012; 35; 1171-1180. *Diabetes Care* 2013; 36(2): e27.
- 4) Kawada T: Poor sleep with normal sleep duration; a preventive effect on incident hypertension. *Hypertension* 2013; 61(2): e11.
- 5) Kawada T: Sleep evaluation by actigraphy for drinkers. *Alcohol Alcohol* 2013; 48(1): 126.
- 6) Kawada T: Determinants of self-rated health and aging. *Eur J Public Health* 31 January, 2013.
- 7) Kawada T: The effect of low cadmium exposure on renal biomarkers. *Occup Environ Med* 7 February, 2013.
- 8) Kawada T: Environmental tobacco smoke and severe dementia syndromes. *Occup Environ Med* 7

February, 2013.

- 9) Kawada T: Definition of poor self-rated health and its relationship with morbidity. *Eur J Public Health* 18 February, 2013.
- 10) Kawada T: Sleep parameters from actigraphy and sleep diary; Is the agreement is important for sleep study? *Sleep Med* 2013; 14(3): 298-299.
- 11) Kawada T: Objective sleep parameters of healthy subjects by actigraphy for the evaluation of sleep medication. *Sleep Med* 2013; 14(3): 299-300.
- 12) Kawada T: The effect of total and high-molecular-weight adiponectin on incident cardiovascular disease and its mortality in older adults. *J Clin Endocrinol Metab* 25 February, 2013.
- 13) Kawada T: Effect of serum adiponectin on mortality for patients with coronary artery disease. *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 6 March, 2013.
- 14) Kawada T: Present self-reported physical activity and objective physical activity in the future. *J Epidemiol Community Health* 13 March, 2013.
- 15) Kawada T: Prognosis factors on cardiovascular events for patients with rheumatoid arthritis; multivariate analysis is indispensable by keeping number of events. *J Rheumatol* 2013; 40(3): 337.
- 16) Kawada T: Validation study of the occupational depression scale at the workplace. *Asian J Psychiatr* 2013; 6(2): 180-181.
- 17) Kawada T: Risk assessment for incident fracture; fall history and bone mineral density in combination with clinical risk factors. *Bone* 2013; 53(2): 597.
- 18) Kawada T: Validation of actigraphic sleep/wake judgments for infants. *Early Hum Dev* 2013; 89(4): 237.
- 19) Kawada T: Sleep duration, obesity and insulin resistance for children. *Eur J Pediatr* 2013; 172(4): 571.
- 20) Kawada T: Actigraphic evaluation for patients with attention deficit/hyperactivity disorder. *Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet* 2013; 162(3): 294.
- 21) Kawada T: C-reactive protein, fibrinogen and incident heart failure; combination procedure for statistical analysis. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2013; 15(4): 298.
- 22) Kawada T: Associated factors with gender gaps in life expectancy from ecological study. *Eur J Public Health* 8 April, 2013.
- 23) Kawada T: Recreational and occupational physical activity as risk factors for cardiovascular disease. *Int J Cardiol* 2013; 165(3): 559-560.
- 24) Kawada T: Squamous cell carcinoma of the penis and marital status; Survival study and risk assessment on mortality. *Cancer Causes Control* 2013; 24(6): 1263.
- 25) Kawada T: Indices of insulin sensitivity and resistance; adequate logarithmic transformation are needed to keep mathematical equivalence. *Early Hum Dev* 2013; 89(7): 515.

- 26) Kawada T: Insulin-related biomarkers and their relationship with hepatic fibrosis risk in patients with psoriasis, metabolic syndrome and non-alcoholic fatty liver disease. *J Gastroenterol* 2013; 48(5): 671-672.
- 27) Kawada T: Risk assessment of longevity for oldest old people; mutual comparison of hazard ratios of independent variables including factors on life satisfaction. *Am J Med* 2013; 126(6): e9.
- 28) Kawada T: Self-rated health and depression of patients with diabetes; how to handle with wide range of ageing and diabetic status? *Diabet Med* 2013; 30(6): 754-755.
- 29) Kawada T: Effect of fenofibrate on vascular endothelial function; statistical appraisal and its validity. *Hypertension* 2013; 61(6): e55.
- 30) Kawada T: Prevalence of insomnia with special reference to age and menopause. *Menopause* 2013; 20(4): 477.

著書

2004

- 1) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2005 (鈴木庄亮, 久道茂編), 2005; pp 251-262, 南江堂.

2005

- 1) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2006 (鈴木庄亮・久道茂編), 2006; pp 253-263, 南江堂.

2006

- 1) 川田智之, 鈴木庄亮: [共著] 保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方. 第2版, 2006; 南江堂.
- 2) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2007 (監修:鈴木庄亮, 久道茂, 編集: 小山洋, 辻一郎), 2007; pp 261-271, 南江堂.

2007

- 1) Nagahara Noriyuki: [分担] Molecular evolution of thioredoxin-dependent redox-sensing switch in mercaptopyruvate sulfurtransferase. Research Advances in Biological Chemistry (Mohan RM, ed), 2007; pp 19-26, Global Research Network.
- 2) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2008 (鈴木庄亮・久道茂監修, 小山洋・辻一郎編集), 2008; pp 267-277, 南江堂.

2008

- 1) Li Q: [分担] Chapter 3; Organophosphorus compounds inhibit natural killer cell activity. Natural Killer T-Cells; Roles, Interactions, and Interventions (Fournier NV), 2008; pp 81-102, Nova Science Publishers, Inc. .
- 2) Li Q (Co-First Author), Morimoto K (Co-First Author): [分担] Chapter 2; Lifestyle and natural killer activity. Natural Killer T-Cells; Roles, Interactions, and Interventions (Fournier NV), 2008; pp 51-80, Nova Science Publishers, Inc.
- 3) 李卿: [分担] 免疫機能と森林セラピー (第3部, 第7章). 森林医学Ⅱ(大井玄, 宮崎良文, 平野秀樹), 2009; pp 98-120, 朝倉書店.
- 4) 李卿, 平野秀樹: [分担] 森林医学研究会の発足 (コラム7). 森林医学Ⅱ(大井玄, 宮崎良文, 平野秀樹), 2009; pp 239-241, 朝倉書店.
- 5) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2009 (鈴木庄亮・久道茂), 2009; pp

267-277, 南江堂.

2009

- 1) Li Q: [分担] NK Cell Assays in Immunotoxicity Testing. Immunotoxicity Testing-Methods and Protocols-Methods in Molecular Biology (Dietert RR), 2010; pp 207-219, Humana Press, NY, USA.
- 2) 川田智之: [分担] 医学大辞典第2版 (伊藤正男・井村裕夫・高久史磨), 2009;, 医学書院.
- 3) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2010 (鈴木庄亮・久道茂), 2010; pp 277-287, 南江堂.

2010

- 1) Li Q: [分担] Apoptosis (Section-III, Chapter 13). Anticholinesterrase Pesticides; Metabolism, Neurotoxicity and Epidemiology (Sato T and Gupta R (eds)), 2010; pp 165-174, John Wiley & Sons.
- 2) 李卿, 川田智之: [分担] 脳の働き. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 2-3, 森林セラピーソサエティ.
- 3) 李卿, 川田智之: [分担] 自律神経系. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 4-5, 森林セラピーソサエティ.
- 4) 李卿, 川田智之, 佐久間康夫; [分担] 内分泌系. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 6-7, 森林セラピーソサエティ.
- 5) 李卿, 川田智之: [分担] 免疫系. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 8-9, 森林セラピーソサエティ.
- 6) 李卿, 川田智之: [分担] 「精神心理・神経系—内分泌系—免疫系」ネットワークへの影響. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 10-11, 森林セラピーソサエティ.
- 7) 李卿, 川田智之: [分担] 自律神経系及び内分泌系への影響; 森林セラピーのリラックス効果. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 12-13, 森林セラピーソサエティ.
- 8) 李卿, 川田智之: [分担] 免疫機能への効果. 森林セラピー検定副読本 (村田泰夫・春日三歩子・河野透編), 2010; pp 14-15, 森林セラピーソサエティ.
- 9) 若山葉子, 川田智之: [分担] 1960年代に南関東の一地域に発生した大規模なウイルス肝炎地域流行の長期追跡成績. HCV感染の natural course を探る; わが国におけるコホート研究 (河田純男, 佐田通夫, 新澤陽英, 斎藤貴史), 2010; pp 9-13, 山形大学出版会.
- 10) 川田智之; [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2011 (鈴木庄亮・久道茂), 2011; pp 273-283, 南江堂.
- 11) Okudera K, Nagahara N, Katayama A, Kitamura H: [分担] Cancer stem cells in lung

cancer;distinct differences between small cell lung carcinoma and non-small cell lung carcinoma. Cancer stem cells, 2011; pp 105-134, Intech, New York, USA.

2011

- 1) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2012 (鈴木庄亮・久道茂), 2012; pp 273-283, 南江堂.
- 2) Li Q, Kawada T: [分担] Effect of Forest Environments on Human Urinary Adrenaline. Biochemistry Research Updates (Simon J. Baginski ed.), 2011; pp 257-266, Nova Science Publishers, NY.
- 3) Li Q: [編集] Forest Medicine, 2012; Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 4) Li Q: [分担] Chapter 1. Introduction. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 1-8, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 5) Li Q, Kawada T: [分担] Chapter 6. Effect of the forest environment on immune function. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 67-85, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 6) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: [分担] Chapter 7. Effect of forest environments on the human endocrinesystem. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 87-101, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 7) Li Q, Otsuka T, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Kawada T, Kagawa T: [分担] Chapter 10. Effect of the forest environment on cardiovascular and metabolic parameters. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 115-133, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 8) Li Q, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Otsuka T, Kawada T: [分担] Chapter 11. Effect of forest environments on psychological responseevaluated by the POMS test. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 135-144, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 9) Li Q: [分担] Chapter 12. Effect of the forest environment on the human psycho-neuro-endocrino-immune network. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp145-153, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 10) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Nakadai A, Kawada T: [分担] Chapter 13. Effect of phytoncides from forest environments on immune function. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp157-167, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 11) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: [分担] Chapter 17. Relationships between percentage of forest coverage and standardized mortality ratios (SMR) of cancers in all prefectures in Japan. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 219-229, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 12) 真鍋宏美, 小谷英太郎, 大塚俊昭: [分担] 第二章 悪性腫瘍 I. 原発性心腫瘍 8. 線維

肉腫／粘液線維肉腫. 心臓腫瘍学(天野純, 中山淳, 池田宇一), 2011; pp 241-248, 南山堂.

- 13) Kawada T, Li Q, Nakadai A, Inagaki H, Katsumata M, Shimizu T, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H: [分担] Chapter 8. Effect of forest bathing on sleep and physical activity. Forest Medicine (Li Q ed), 2012; pp 103-107, Nova Science Publishers, Inc., NY.

2012

- 1) Lee J, Li Q, Tyrvaainen L, Tsunetsugu Y, Park BJ, Kagawa T, Miyazaki Y: [分担] Nature therapy and preventive medicine. PUBLIC HEALTH (Jay Maddock ed), 2012; pp 325-350, Intech, Rijeka, Croatia.
- 2) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 (鈴木庄亮・久道茂), 2013; pp 279-289, 南江堂.

学会発表

特別講演

2003

- 1) 川田智之: 騒音の睡眠影響;レム睡眠に焦点をあてて. 第 71 回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.

2009

- 1) 李卿: 森林浴と働く人の健康. 第 245 回日本産業衛生学会関東地方会例会 (東京), 2009. 5.

2010

- 1) 李卿: 環境因子が生体の免疫機構に及ぼす影響;プラス影響とマイナス影響の視点から. 第 41 回日本職業環境アレルギー学会・第 57 回日本産業衛生学会アレルギー免疫毒性研究会 (高崎), 2010. 7.

シンポジウム

2005

- 1) 大塚俊昭: 企業の中での健康管理; 社員健康管理におけるイベント心電計の使用経験 (シンポジウム題;在宅医療と家庭用心電図). 第 2 回心電図伝送システム研究会, 2005. 2.
- 2) Li Ying J, Matsumoto A, Azuma A, Takizawa H, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S: Mouse Strain Differences in Airway Hyperresponsiveness Caused by Low-Dose Diesel Exhaust Particles (Theme; Clinical and physiological features of allergy and immunotoxicological diseases 2). The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases (ISOEAID05) (Kumamoto), 2005. 9.
- 3) Nakadai A, Li Q, Kawada T: Chlorpyrifos induced apoptosis in human immune cells (Theme; Immuno-toxicological study model to evaluate the allergenicity of each chemical substance by in-vivo and in-vitro experiment). The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases (ISOEAID05) (Kumamoto), 2005. 9.

2006

- 1) Li Q, Kawada T: The new mechanism of organophosphorus pesticides-induced inhibition of cytolytic activity of killer cells (International Symposium on Immune Effects of Work Environment). The 16th International Congress of Agricultural Medicine and Rural Health (Lodi), 2006. 6.

2007

- 1) 李卿: 森林浴が生体免疫機能を高める (科学的視点から森林浴の癒し効果を検証する). 第 77 回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 2) Li Q, Kawada T: A forest bathing trip increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins; Comparison with a trip to places without forest (Life Science). Bioeco2007 (Tianjin, China), 2007. 6.

2008

- 1) 李卿: 森林浴による生体免疫機能への影響 (日本・韓国ならびに世界の森林浴研究動向). 第 78 回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 2) Nagahara N, Sawada N, Arisaka F, Mitsuoka K, Minami M: Zinc ion- and redox-regulated metamorphosis of oligomeric state for porphobilinogen synthase activation. The 8th International Porphyrin-Heme Symposium (Matsue), 2008. 10.

2009

- 1) Otsuka T, Ibuki C: Augmented Arterial Wave Reflection in Middle-Aged Male Workers Exposed to High Job Stress (循環器疾患とストレス/Is Stress a Risk of Cardiovascular Disease?). 73rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2009. 3.
- 2) 李卿: 森林浴が免疫機能に及ぼす効果 (シンポジウム名;森林浴の科学-生理的リラックスならびに免疫機能向上効果-). 第 74 回日本温泉気候物理医学会総会 (つくば), 2009. 5.
- 3) Nagahara N: A novel thioredoxin-dependent redox-sensing switch in mercaptopyruvate sulfurtransferase. 11th International Congress on Amino Acids, peptides and proteins (Vienna, Austria), 2009. 8.

2010

- 1) 李英姫, Rennard S, 滝澤始, 吾妻安良太, 川田智之, 工藤翔二: Epithelial-to-Mesenchymal Transition (EMT) におけるヒト気道上皮細胞遊走に対する Prostaglandin (PG) E2 の作用 (サイトカインとメディエータ). 第 30 回気道分泌研究会 (東京), 2010. 4.
- 2) 若山葉子: 1960 年代に南関東の一地域に発生した大規模なウイルス肝炎地域流行の長期追跡成績 (HCV の Natural course を探る;わが国におけるコホート研究). 第 46 回日本肝臓学会総会 (山形), 2010. 5.
- 3) Li Q, Kawada T, Kagawa T: A day trip to a forest park enhances human immune function. XXIII World Congress of the International Union of Forest Research Organizations (IUFRO) (Seoul), 2010. 8.

2011

- 1) 李卿, 川田智之: 森林セラピーによる「精神心理・神経系-内分泌系-免疫系」ネットワークへの影響 (シンポジウム名; 予防医学の視点から森林セラピーの健康増進・疾病予防効果を検証する). 第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2011. 3.
- 2) 永原則之: H₂S 合成; mercaptopyruvate sulfurtransferase の新たな役割. 第 11 回 NO 学会学術集会 (町田), 2011. 5.
- 3) Li Q: Forest Environment and Immune Function. Forest Therapy and Health Promotion (韓国山林治癒国際シンポジウム) (Seoul, Korea), 2011. 8.
- 4) Li Q: The beneficial effect of immune function in the forest. In; The health benefit of therapeutic activities in the forest. 21st World Congress on Psychosomatic Medicine (Seoul, Korea), 2011. 8.

2012

- 1) Li Q: An overview of the research into forest therapy -recent trends worldwide and the collaboration between INFOM and the Japanese Society of Forest Medicine- In; Symposium; The establishment of INFOM and the collaboration with the Japanese Society of Forest Medicine. 第 82 回日本衛生学会学術総会 (京都), 2012. 3.
- 2) Li Q: EFFECTS OF FOREST ENVIRONMENTS ON HUMAN HEALTH -FOREST MEDICINE TRENDS IN JAPAN-. International Conference “Ecological Culture in the Global World; Russian Education Modernization in the Context of International Strategies” (M. A. Sholokhov Moscow State Humanitarian University, Moscow, Russia), 2012. 11.

2013

- 1) 李卿: 森林セラピーの臨床応用の可能性 (シンポジウム名; 森林セラピーの臨床応用と個人差). 第 83 回日本衛生学会学術総会 (金沢), 2013. 3.

パネルディスカッション

2004

- 1) 川田智之, 稲垣弘文, 笹澤吉明, 田村祐司, 鈴木庄亮: 環七沿いのホテルで収録した道路交通騒音の睡眠影響. 第 21 回睡眠環境学会, 2004. 12.

2005

- 1) Li Q, Nakadai A, Inagaki H, Katsumata M, Shimizu T, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H, Miyazaki Y, Kagawa T, Koyama Y, Krensky AM, Morimoto K, Kawada T: Forest Bath Enhances Human NK Activity (Theme; Comprehensive and systemic preventive countermeasures against allergy and immuno-toxicology). The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases (ISOEAID05) (Kumamoto), 2005. 9.

2009

- 1) 李卿: 森林環境要素フィトンチッドの免疫機能に及ぼす効果. 第79回日本衛生学会学術総会, 2009. 3.

その他

2003

- 1) 李卿: Granulysinによるアポトーシスおよびそのメカニズム. 第71回日本医科大学医学会総会, 2003. 9.
- 2) Li Q, Nakadai A, Kawada T: Organophosphorus pesticides induce inhibition on cellular immune response. The 21st International Kumamoto Medical Bioscience Symposium (Kumamoto), 2003. 10.

2005

- 1) Li Q, Nakadai A, Matsushima H, Miyazaki Y, Krensky Alan M, Kawada T, Morimoto K: Phytoncides (wood essential oils) induce human natural killer cell activity. The international Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases (ISOEAID05) (Kumamoto), 2005. 9.

2006

- 1) 李卿: 有機リン農薬による免疫毒性のメカニズム. 第79回日本産業衛生学会, 2006. 5.
- 2) 李卿: 有機リン農薬による免疫毒性の新しい機序. 平成18年度日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 3) Sasazawa Y, Kawada T, Suzuki S: The relationship between variety of community noise and sleep disturbance in Japanese. The 35th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering (INTER-NOISE 2006) (Honolulu), 2006. 12.

2007

- 1) 永原則之: レドックス分子スイッチを介する酵素活性機能;チオレドキシンのもう一つの働き. 京都大学医学部附属病院探索医療センター, 2007. 1.

2008

- 1) Li Q: Forest medicine trends in Japan. International Symposium on Forests and Human Health of The international Union of Forests Research Organizations (IUFRO) (Marrakesh, Morocco), 2008. 4.
- 2) Li Q: Therapeutic power of forest visits -growing evidence base. Forests- promoting or harming

human health. European Forest Week (Rome, Italy), 2008. 10.

2009

- 1) 李卿: 森がもたらす現代人の健康 (山岳環境の医療への貢献). 第 29 回日本登山医学会学術集会 (東京), 2009. 5.

2011

- 1) Li Q: Does nature affect human immune function? Nature Promoting Human Health Seminar (Helsinki, Finland), 2011. 5.
- 2) Nagahara N, Ito T: Mercaptopyruvate sulfurtransferase knockout mouse production; What is the physiological role of the enzyme? 12th International Congress on Amino Acids, peptides and proteins (Beijing, China), 2011. 8.
- 3) Nagahara: Antioxidative function of mercaptopyruvate sulfurtransferase. 2nd Polish Congress of Biochemistry and Cell Biology (Cracow, Poland), 2011. 9.

一般講演

2003

- 1) 李卿, Okada S, Clayberger C, Krensky Alan M: 農薬 Rotenone が Granulysin によるアポトーシスを抑制する. 第 76 回日本産業衛生学会, 2003. 4.
- 2) Nagahara N: Regulation of mercaptopyruvate pathway in a cysteine metabolism by redox balance; inhibition-reactivation cycle of mercaptopyruvate sulfurtransferase. 8th International Congress on Amino Acids and Proteins (Roma), 2003. 9.
- 3) Sawada N, Nagahara N, Kawada T: Activation mechanism of porphobilinogen synthase by a reducing agent. 8th International Congress on Amino Acids and Proteins (Roma), 2003. 9.
- 4) Sawada N, Nagahara N, Kawada T: The role of 4 cysteines in an active center of porphobilinogen synthase. 第 76 回日本生化学会大会, 2003. 10.
- 5) Nagahara N, Li Q, Shimizu T, Fujii-Kuriyama Y, Kawada T: A point mutation is a silencer element markedly reduce a promoter activity of human mercaptopyruvate sulfurtransferase gene; A possible pathogenesis of mercaptolactate-cysteine disulfiduria. 第 76 回日本生化学会大会, 2003. 10.
- 6) Hirata Y, Li Q, Inagaki H, Nagahara N, Kawada T: Tissue distribution of granzyme 3 (K) mRNA expression in rats. 第 76 回日本生化学会大会, 2003. 10.
- 7) 川田智之, 勝又聖夫, 若山葉子: 自覚的健康度と生命予後. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003. 10.
- 8) 勝又聖夫, 川田智之, 高橋修和, 深沢幸枝, 上田美穂: 住民健診時における喫煙の健康問題への取り組み. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003. 10.

- 9) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 室内環境汚染物質に対する塗装用塗料の影響. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003. 10.
- 10) 若山葉子, 勝又聖夫, 植田悠紀子, 川田智之: 肝炎流行地区の予後の検討. 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 2003. 10.
- 11) 若山葉子, 植田悠紀子, 川田智之: ウイルス肝炎流行地域住民の予後の検討 -約 30 年間の追跡成績-. 第 68 回日本民族衛生学会総会, 2003. 11.

2004

- 1) 平田幸代, 李卿, 稲垣弘文, 永原則之, 川田智之: Serine protease inhibitor のヒト Granzyme 3 活性への影響. 日本薬学会第 124 年会, 2004. 3.
- 2) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 李卿, 川田智之: 抗ヒト Granzyme 3 モノクローナル抗体の作製. 日本薬学会第 124 年会, 2004. 3.
- 3) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: 非喫煙者の環境タバコ煙曝露状況と唾液中 Cotinine の関わり. 日本薬学会第 124 年会, 2004. 3.
- 4) 川田智之, 中台亜里, 稲垣弘文, 李卿, 平田幸代, 勝又聖夫, 永原則之: 職域における「死の 3 ないし 4 重奏」危険因子保有者割合からみた労災保険 2 次健診の意義. 第 77 回日本産業衛生学会, 2004. 4.
- 5) 李卿, 中台亜里, 川田智之: Perforin Knockout マウスを用いて有機リン農薬による NK, CTL 及び LAK 活性低下の機序を検討する. 第 77 回日本産業衛生学会, 2004. 4.
- 6) 中台亜里, 李卿, 川田智之: 有機リン農薬による Chlorpyrifos による細胞死. 第 77 回日本産業衛生学会, 2004. 4.
- 7) 李卿, 中台亜里, 石崎正通, 森本兼曩, Krensky Alan M, 川田智之: 有機リン農薬 DDVP によるヒト NK 細胞内の Perforin, Granzyme A, Granulysin 発現量への影響. 第 11 回免疫毒性学会学術大会, 2004. 9.
- 8) Nagahara N, Yoshii T: The catalytic site, persulfide in rat mercaptopyruvate sulfurtransferase resists oxidative stress. 第 77 回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 9) Nagahara N, Yoshii T: Bromopyruvate tags arginine 187, a substrate binding site, to inactivate rat mercaptopyruvate sulfurtransferase. 第 77 回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 10) Sawada N, Nagahara N, Nakajima Y, Sakai T, Kawada T: Activation mechanism of human porphobilinogen synthase by reducing agents. 第 77 回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 11) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Li Q, Nagahara N, Kawada T: Granzyme 3 enzymatic activity on synthetic substrates. 第 77 回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 12) Inagaki H, Hirata Y, Shimizu T, Li Q, Kawada T: Monoclonal antibodies against human granzyme 3. 第 77 回日本生化学会大会, 2004. 10.
- 13) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 植田悠紀子: ウイルス肝炎流行地域住民の予後の検討. 第 63 回日本公衆衛生学会総会, 2004. 10.

- 14) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之, 高橋修和, 深沢幸枝, 上田美穂: 喫煙状況の評価指標. 第 63 回日本公衆衛生学会総会, 2004. 10.
- 15) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之, 高橋修和, 深沢幸枝, 上田美穂: 住民健診時における喫煙の健康問題への取り組み (その 2). 第 63 回日本公衆衛生学会総会, 2004. 10.

2005

- 1) 李卿, 中台亜里, 松島弘樹, 宮崎良文, 川田智之, 森本兼曩; フィトンチッドのヒト NK 細胞機能への影響. 第 75 回日本衛生学会総会, 2005. 3.
- 2) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 李卿, 永原則之, 川田智之: FRETs ライブラリを用いたヒト Granzyme 3 の基質特異性の解析. 日本薬学会第 125 年会, 2005. 3.
- 3) 平田紀美子, 勝又聖夫, 鈴木博子, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液の採取時間やタバコ煙曝露状況が唾液中 Cotinine 濃度に及ぼす影響. 日本薬学会第 125 年会, 2005. 3.
- 4) 李英姫, 松本亜紀, 平松久弥子, 吾妻安良太, 滝澤始, 菅原勇, 川田智之, 工藤翔二: ディーゼル排気粒子によるマウス気道炎症病態の系統差検討. 第 45 回日本呼吸器学会総会, 2005. 4.
- 5) 中台亜里, 李卿, 川田智之: 有機リン農薬 Chlorpyrifos によるヒト免疫細胞のアポトーシス. 第 78 回日本産業衛生学会, 2005. 4.
- 6) 李卿, 中台亜里, 石崎正通, 森本兼曩, 川田智之: 有機リン農薬 DDVP がヒト NK 細胞内の Perforin, Granzyme A, Granulysin の濃度を減少させる. 第 78 回日本産業衛生学会, 2005. 4.
- 7) Sawada N, Nagahara N, Kawada T: A reducing agent activates human porphobilinogen synthase via intrasubunit transfer of a zinc ion. 9th International Congress of Amino Acids and Proteins (Vienna), 2005. 8.
- 8) Nagahara N, Yoshii T: An important role of sulfane sulfur at a catalytic cysteine of rat mercaptopyruvate sulfurtransferase in defence against oxidative stress. 9th International Congress on Amino Acids and Proteins (Vienna), 2005. 8.
- 9) 大塚俊昭, 宮地秀樹, 時田祐吉, 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新博次: 指尖容積加速度脈波による冠動脈疾患リスク判定の試み; 地域健康診断における横断研究. 第 53 回日本心臓病学会学術集会, 2005. 9.
- 10) 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之: サリン事件被害者検診と被害者の自覚症状. 第 64 回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.
- 11) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部隼二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績. 第 64 回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.
- 12) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: タバコ煙中ガス成分の簡易な測定法の開発と医学教育での応用; その 2. 第 64 回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.
- 13) 川田智之, 伊藤博子, 勝又聖夫: 睡眠時の動脈血酸素飽和度; 睡眠段階との関係. 第 64

- 回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.
- 14) 武藤三千代, 渡部鎌二, 若山葉子: 高齢者における歩行能力測定. 第 64 回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.
 - 15) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: タバコ煙中ガス成分の簡易的な測定法の開発と医学教育での応用; その 1. 第 64 回日本公衆衛生学会総会, 2005. 9.
 - 16) Hirata Y, Inagaki H, Li Q, Kawada T: Expression of enzymatically active recombinant human granzyme A. 第 78 回日本生化学会大会, 2005. 10.
 - 17) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Kawada T: Analysis of substrate specificity of human granzyme A. 第 78 回日本生化学会大会, 2005. 10.
 - 18) Nagahara N, Yoshii T, Katayama A: Post-translational regulation of mercaptopyruvate sulfurtransferase activity by the redox; The maintenance of redox homeostasis via the cysteine degradation control. 第 78 回日本生化学会大会, 2005. 10.
 - 19) Sawada N, Nagahara N, Kawada T: A reserve zinc ion coordinated with Cys223 and His131 moves to the other binding site in the activation of human porphobilinogen synthase by 2-mercaptoethanol. 第 78 回日本生化学会大会, 2005. 10.
 - 20) Li Ying J, Matsumoto A, Azuma A, Takizawa H, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S: Mouse Strain Differences in Airway Hyperresponsiveness Caused by Low-Dose Diesel Exhaust Particles. 10th Asian Pacific Society of Respiriology (APSR) (Guangzhou), 2005. 11.
 - 21) Kawada T, Katsumata M, Suzuki H, Sasazawa Y, Suzuki S: Population Study on the Prevalence of insomnia among Japanese Women Living in a Village and a Local City. The 10th Asian Congress of Agricultural Medicine and Rural Health (Kinugawa), 2005. 11.
 - 22) 李卿, 中台亜里, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 清水孝子, 平田幸代, 平田紀美子, 鈴木博子, 川田智之, 宮崎良文, 香川隆英, 小山泰弘, 森本兼曩: 森林浴がヒト NK 活性及びリンパ球内 Perforin, Granulysin, Granzyme を増加させる. 第 5 回分子予防環境医学研究会, 2005. 11.
 - 23) 李英姫, 松本亜紀, 吾妻安良太, 滝澤始, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二: 低濃度ディーゼル排気粒子曝露によるマウス気道過敏性の系統差. アレルギー・気道上皮細胞研究会第 9 回学術大会, 2005. 12.

2006

- 1) Li Q, Nakadai A, Ishizaki M, Morimoto K, Krensky AM, Kawada T: Effect of Dimethyl 2,2-Dichlorovinyl Phosphate (DDVP) on the Expression of Perforin, Granzyme A and Granulysin in Human NK Cells. BTS/UKEMS Spring Congress (Coventry), 2006. 3.
- 2) 永原則之: 酵素の活性変動を基に行う診断のピットフォール. 第 76 回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 3) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鎌二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績. 第 76 回日本衛生学会総会, 2006. 3.

- 4) 勝又聖夫, 伊藤博子, 川田智之: サリン事件被害者の持続的な有訴状況. 第 76 回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 5) 李英姫, 松本亜紀, 吾妻安良太, 滝澤始, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二: 低濃度 DEP 曝露によるマウス炎症性サイトカインの系統差. 第 76 回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 6) 澤田典里, 永原則之, 南正康, 川田智之: デルタアミノレブリン酸脱水酵素の活性上昇と低下に伴う構造変化. 第 76 回日本衛生学会総会, 2006. 3.
- 7) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: リコンビナントヒト Granzyme A の発現とその性質. 日本薬学会第 126 年会, 2006. 3.
- 8) 平田紀美子, 勝又聖夫, 中台亜里, 稲垣弘文, 川田智之: 光触媒による室内空気汚染物質の分解と生成. 日本薬学会第 126 年会, 2006. 3.
- 9) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: セリンプロテアーゼ阻害剤のヒト Granzyme 3 及び A への影響. 日本薬学会第 126 年会, 2006. 3.
- 11) 李卿, 中台亜里, 屈田力, 松島弘樹, 勝又聖夫, 清水孝子, 稲垣弘文, 平田幸代, 平田紀美子, 川田智之, 呂玉泉, 中山邦夫, Krensky AM, 森本兼曩: ライススタイルによるヒト NK, T 細胞及びリンパ球内 Granulysin, Perforin, Granzyme A/B への影響. 第 79 回日本産業衛生学会, 2006. 5.
- 12) Sawada N, Nagahara N, Minami M, Kawada T: Histidine131 involves in catalysis of human porphobilinogen synthase. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto), 2006. 6.
- 11) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Li Q, Kawada T: Characterization of recombinant human granzyme 3. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto), 2006. 6.
- 13) Inagaki H, Hirata Y, Shimizu T, Li Q, Kawada T: Expression, purification and characterization of recombinant human granzyme A. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto), 2006. 6.
- 14) Nagahara N, Yoshii T, Abe Y: Redox regulation of the enzymatic activity of mercaptopyruvate sulfurtransferase. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto), 2006. 6.
- 15) Li Q, Nakadai A, Inagaki H, Katsumata M, Shimizu T, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H, Miyazaki Y,

- Kagawa T, Koyama Y, Krensky AM, Morimoto K, Kawada T: A forest bathing trip enhances human natural killer activity. 28th International Commission on Occupational Health (ICOH) (Milan), 2006. 6.
- 16) 李英姫, 松本亜紀, 滝澤始, 吾妻安良太, 菅原勇, 川田智之, 工藤翔二: 低濃度 DEP 曝露によるマウス炎症性サイトカインの系統差. 第 46 回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 17) Li Q, Nakadai A, Matsushima H, Miyazaki Y, Krensky AM, Kawada T, Morimoto K: Effect of phytoncide on human NK activity and intracellular perforin, granulysin and granzyme in NK cell. The 15th World Congress of Pharmacology (Beijing), 2006. 7.
- 18) 大塚俊昭, 雪吹周生, 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次: 高感度 CRP は冠動脈疾患発症リスク評価に有用か? 健常中年男性における検討. 第 54 回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 19) 勝又聖夫, 平田紀美子, 伊藤博子, 高橋修和, 深澤幸枝, 上田美穂, 川田智之: 唾液中ニコチン・コチニン濃度および呼気中一酸化炭素濃度と喫煙習慣との関連性. 第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
- 20) 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之: サリン事件被害者検診とその臨床検査データの解析. 第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
- 21) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 薬剤師会が行っている「薬と健康週間」の活動と役割. 第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
- 22) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部隼二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の調査成績(II). 第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
- 23) Li Y-J, Takizawa H, Azuma A, Matsumoto A, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S: Mouse Strain Differences in Airway Inflammatory Responses Caused by Long Time Low-Dose Diesel Exhaust Exposure. 11th Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory (APSR) (Kyoto), 2006. 11.
- 24) Hirata K, Sakaguchi M: Activities and Roles of “Medicine and Health Week” Conducted by a Local Pharmaceutical Association. 21st Congress of Federation of Asian Pharmaceutical Association (Yokohama), 2006. 11.
- 25) 李英姫, 松本亜紀, 吾妻安良太, 滝澤始, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二: 低濃度ディーゼル排気粒子の長期曝露がアレルギー性喘息発症に及ぼす影響. 第 10 回アレルギー・気道上皮細胞学術大会, 2006. 12.
- 26) 李卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 平田紀美子, 鈴木博子, 李英姫, 若山葉子, 川田智之, 宮崎良文, 香川隆英, 森本兼曩: 森林浴がヒト NK 活性, NK 細胞数及び細胞内抗がんタンパクを増加させる. 第 6 回分子予防環境医学研究会, 2006. 12.

2007

- 1) 澤田典里, 永原則之, 圓藤陽子, 中嶋義明, 南正康, 川田智之: デルタアミノレブリン酸

- 脱水酵素の His131 は遠位亜鉛を結合するのか. 第 77 回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 2) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: 森林率とがんの標準化死亡比(SMR), 死因別死亡確率及び平均余命との関連性. 第 77 回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 3) 李英姫, 滝澤始, 吾妻安良太, 松本亜紀, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二: 低濃度ディーゼル排気粒子の長期曝露によるマウスアレルギー性気道炎症病態への影響. 第 77 回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 4) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鏝二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績(III). 第 77 回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 5) 小林麻衣子, 李卿, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 平田紀美子, 伊藤博子, 李英姫, 若山葉子, 川田智之: 森林浴によるリラックス効果一般旅行との比較. 第 77 回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 6) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: リコンビナントヒト Pro-granzyme 3 の発現. 日本薬学会第 127 年会, 2007. 3.
 - 7) 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之: 抗ヒト Granzyme 3 部分ペプチド抗体の作製とその応用. 日本薬学会第 127 年会, 2007. 3.
 - 8) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 坂口眞弓, 川田智之: 浅草薬剤師会が行っている『薬と健康の週間』の活動及び役割. 日本薬学会第 127 年会, 2007. 3.
 - 9) 川田智之, 大塚俊昭, 稲垣弘文, 李卿, 勝又聖夫, 平田幸代: 職域における労働者の生活習慣と気分障害の関連性. 第 80 回日本産業衛生学会, 2007. 4.
 - 10) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: 有機リン農薬によるヒト NK 細胞のアポトーシス. 第 80 回日本産業衛生学会, 2007. 4.
 - 11) 大塚俊昭, 川田智之, 北川裕子, 赤尾ますみ: 仕事による疲労がメタボリックシンドローム構成因子およびその他の動脈硬化危険因子に与える影響: 職域男性従業員における検討. 第 80 回日本産業衛生学会, 2007. 4.
 - 12) Li Y-J, Matsumoto A, Takizawa H, Azuma A, Kawada T, Sugawara I, Kudoh S: Mouse Strain Differences in Airway Inflammatory Responses Caused by Long-Time Low-Dose Diesel Exhaust Exposure. 2007 ATS International Conference (San Francisco), 2007. 5.
 - 13) 兪昌赫, 李英姫, 王春艶, 吾妻安良太, 松田久仁子, 阿部信二, 臼杵二郎, 工藤翔二: エリスロマイシン化合物 EM703 の TGF- β /Smad シグナル抑制効果. 第 47 回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
 - 14) 永原則之: 地球大気 of 酸化的環境への適応; 酵素の指向分子進化. 2007 年日本地球惑星科学連合大会, 2007. 5.
 - 15) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Organophosphorus pesticides induce apoptosis in human NK cells. XIth International Congress of Toxicology (Montreal, Canada), 2007. 7.
 - 16) Sawada N, Nagahara N, Arisaka F, Endo Y, Nakajima Y, Minami M, Kawada T: Histidine131 is essential for metal- and redox-regulated activation of human porphobilinogen synthase. 13th

- International Conference on Biological Inorganic Chemistry (Vienna, Austria), 2007. 7.
- 17) Nagahara N, Sawada N, Arisaka F, Mitsuoka K, Minami M: Zinc ion- and redox-regulated metamorphosis of oligomeric state for porphobilinogen synthase activation. 13th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (Vienna, Austria), 2007. 7.
 - 18) Li Q, Morimoto K, Kawada T: Lifestyle affects human NKT cells. 第 14 回日本免疫毒性学会, 2007. 9.
 - 19) 大塚俊昭, 雪吹周生, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹: メタボリックシンドロームと炎症マーカーとの関連; 白血球数と高感度 CRP の比較. 第 55 回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
 - 20) Kawada T, Suzuki S, Tsukioka T, Iesaki S: Depressive state, physical symptoms and irregular daily life are associated with poor perceived health of old inhabitants of Japan. International Psychogeriatric Association (Osaka, Japan), 2007. 10.
 - 21) 勝又聖夫, 平田紀美子, 伊藤博子, 川田智之, 深澤幸枝, 上田美穂: 住民健診時に取り組んでいる「喫煙の健康問題の動機付け」の 5 年間のまとめ. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 22) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鏢二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査; 肥満指標による比較検討. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 23) 渡部鏢二, 武藤三千代, 山口由子, 渡部月子, 若山葉子: ラジオ体操の継続的実施が精神及び身体に及ぼす効果について. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 24) 武藤三千代, 渡部鏢二, 若山葉子, 山口由子, 渡部月子: ラジオ体操の継続的実施が生活活動力に及ぼす影響について. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 25) 若山葉子, 川田智之, 植田悠紀子: ウイルス肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察. 第 72 回日本民族衛生学会総会, 2007. 10.
 - 26) 平田紀美子, 勝又聖夫, 伊藤博子, 川田智之, 深澤幸枝, 上田美穂: 両親の喫煙状況と子供の家庭内における受動喫煙. 第 66 回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 27) 平田紀美子, 坂口眞弓, 町田善則, 田中博登, 秦千津子, 高橋正也, 植木潔, 柴田博子, 石井隆明, 勝又聖夫, 川田智之: 「薬と健康の週間」での薬剤師会活動と役割. 第 40 回日本薬剤師会学術大会, 2007. 10.
 - 28) Nagahara N: Molecular evolution of an intersubunit disulfide bond serving as a thioredoxin-dependent redox-sensing switch in mercaptopyruvate sulfurtransferase. 第 80 回日本生化学会大会, 2007. 12.
 - 29) 澤田典里, 永原則之, 圓藤陽子, 中嶋義明, 南正康, 川田智之: ヒトポルフォビリノーゲン合成酵素の遠位亜鉛結合部位, Cys223 は亜鉛を近位亜鉛結合部位に効率よく供給して酵素活性を保つ. 第 30 回日本分子生物学会年会・第 80 回日本生化学会大会合同大会 (BMB2007), 2007. 12.
 - 30) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: リコンビナントヒト Pro-granzyme 3 の発現. 第 30 回

日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会 (BMB2007), 2007. 12.

- 31) 李英姫, 滝澤始, 吾妻安良太, 菅原勇, 幸山正, 山内康宏, 高橋智, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2 ノックアウトマウス喘息モデルにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 第11回アレルギー・気道上皮細胞学術大会, 2007. 12.

2008

- 1) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Dichlorvos significantly decreases the expression of granzyme B and granzyme 3/K in human NK cells. The 47th annual meeting of Toxicology of SOT (Society of Toxicology) (Seattle, WA, USA), 2008. 3.
- 2) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: 鳥取県智頭町の慶長スギの森における森林浴効果. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 3) 小林麻衣子, 李卿, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 五月女孝子, 若山葉子, 川田智之: 森林浴によるリラックス効果. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 4) 稲垣弘文, 平田幸代, 李卿, 小林麻衣子, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒト Granzyme 3 に対するモノクローナル抗体の作製. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 5) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 植田悠紀子: ウイルス肝炎流行地域住民の病因と病態の長期的観察. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 6) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 大塚俊昭, 川田智之: 唾液中ニコチン・コチニン測定のための唾液採取器の開発. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 7) 李英姫, 滝澤始, 吾妻安良太, 菅原勇, 幸山正, 山内康宏, 高橋智, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2 ノックアウトマウスにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 8) Li Yj, Takizawa H, Azuma A, Sugawara I, Yamauchi Y, Kohyama T, Kawada T, Kudoh S: Mouse Strain Differences in the Generation of Allergic Airway Inflammation by Prolonged Low-Dose Diesel Exhaust Particle Exposure. 104th American Thoracic Society International Conference (Toronto, Canada), 2008. 5.
- 9) 李卿, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 川田智之, 森本兼曩: 森林浴による看護師のストレス軽減. 第81回日本産業衛生学会, 2008. 6.
- 10) 大塚俊昭, 川田智之, 雪吹周生, 草間芳樹: 職域中年男性における職業性ストレスと橈骨動脈 AI との関連. 第8回臨床血圧脈波研究会, 2008. 6.
- 11) 大塚俊昭, 川田智之, 北川裕子, 矢内美雪: 職域中年男性における職業性ストレスと全身性動脈硬化度との関連. 第81回日本産業衛生学会, 2008. 6.
- 12) 李英姫, 清水-五月女孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 滝澤始, 吾妻安良太, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二, 砂塚敏明, 大村智: EM・EM703 はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する. 第15回マクロライド新作用研究会, 2008. 7.
- 13) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: 有機リン農薬 Chlorpyrifos によるヒト T 細胞のアポトー

シス. 第 15 回日本免疫毒性学会, 2008. 9.

- 14) Sawada N, Nagahara N, Kawada T: Enzymatic activation mechanism associated with intrasubunit transfer of a distal zinc ion in human porphobilinogen synthase. 8th International Porphyrin- Heme Symposium (Matsue), 2008. 10.
- 15) 勝又聖夫, 平田紀美子, 伊藤博子, 川田智之, 深澤幸枝, 上田美穂: 住民健診票にみられる喫煙習慣と受療状況. 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 16) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 禁煙支援に用いる唾液中ニコチン, コチニン同時測定のための唾液採取器具の開発と検討. 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 17) 武藤三千代, 渡部鎌二, 渡部月子, 若山葉子: カンボジア・シェムリアップにおける青少年の体格と体力について. 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 18) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鎌二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績; 肥満指標による比較検討 II. 第 67 回日本公衆衛生学会総会, 2008. 11.
- 19) 澤田典里, 永原則之, 川田智之: ポルフォビリンノーゲン合成酵素の鉛による阻害機構の解析. 第 81 回日本生化学会大会・第 31 回日本分子生物学会年会・合同大会, 2008. 12.
- 20) Nagahara N: Redox of the persulfurated reaction intermediate of rat mercaptopyruvate sulfurtransferase. 第 81 回日本生化学会大会・第 31 回日本分子生物学会年会・合同大会 (神戸), 2008. 12.
- 21) 清水-五月女孝子, 李英姫, 平田幸代, 稲垣弘文, 滝澤始, 吾妻安良太, 川田智之, 菅原勇, 工藤翔二, 砂塚敏明, 大村智: EM・EM703 はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する. 第 12 回アレルギー・気道上皮細胞研究会, 2008. 12.

2009

- 1) 李卿, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 平田紀美子, 清水孝子, 川田智之, 朴鎮範, 大平辰朗, 香川隆英, 宮崎良文: ヒノキ精油の室内曝露によるヒト免疫機能への影響. 第 8 回分子予防環境医学研究会, 2009. 1.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Chlorpyrifos induces apoptosis in human T cells. 48th annual meeting of Toxicology of SOT (Society of Toxicology) (Baltimore, Maryland, USA), 2009. 3.
- 3) 小林麻衣子, 李卿, 若山葉子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 平田幸代, 平田紀美子, 五月女孝子, 川田智之, 宮崎良文: ヒノキ精油によるリラックス効果. 第 79 回日本衛生学会学術総会, 2009. 3.
- 4) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒト Granzyme 3 に対する sandwich ELISA. 日本薬学会第 129 年会, 2009. 3.
- 5) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 小林麻衣子, 李卿, 川田智之: ヒト末梢血リンパ球における Granzyme 3 の分布. 日本薬学会第 129 年会, 2009. 3.

- 6) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液中ニコチン, コチニン同時測定のための唾液採取器具の開発と基本的な検討. 日本薬学会第 129 年会, 2009. 3.
- 7) 李卿, 稲垣弘文, 平田幸代, 岡村愛, 王棟, 那須民江, 上島通浩, 川田智之: Fenitrothion (FNT)と 3-methyl-4-nitrophenol (MNP)の経口曝露によるラット免疫機能への影響. 第 82 回日本産業衛生学会 (福岡), 2009. 5.
- 8) 大塚俊昭, 川田智之, 矢内美雪, 北川裕子: 職域健診データを利用した高血圧発症の予測; フラミンガム高血圧リスクスコアの有用性. 第 82 回日本産業衛生学会 (福岡), 2009. 5.
- 9) 大塚俊昭, 川田智之, 雪吹周生, 草間芳樹: 高脂血症者における橈骨動脈 Augmentation Index と MEGA リスクスコアとの関連性. 第 9 回臨床血圧脈波研究会 (大阪), 2009. 5.
- 10) Nagahara N, Sawada N, Arisaka F, Mitsuoka K, Minami M: Redox and metal-regulated spatial subunit arrangement of the oligomer for porphobilinogen synthase activation. 14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (Nagoya, Japan), 2009. 7.
- 11) Sawada N, Nagahara N, Endo Y, Nakajima Y, Kawada T: Does His¹³¹ at the orifice of the catalytic cavity transiently bind a zinc ion in human porphobilinogen synthase?. 14th International conference on biological inorganic chemistry (Nagoya, Japan), 2009. 7.
- 12) 李卿: 森林浴 (森林環境)がヒトナチュラル・キラー(NK)細胞活性を高める. 第 8 回国際バイオフィオーラム (東京), 2009. 7.
- 13) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: Effect of ziram, a carbamate pesticide, on human NK activity. 第 16 回日本免疫毒性学会 (旭川), 2009. 8.
- 14) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Ishizaki M, Okamura A, Wang D, Nasu T, Kamijima M, Kawada T: Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on immune function in Wistar rats. 46th Congress of the European Societies of Toxicology (Dresden, Germany), 2009. 9.
- 15) Li Q, Kawada T: Beneficial effects of forest environment on human immune function. International Conference on Ecology and Forests for Public Health (Oslo, Norway), 2009. 9.
- 16) 李英姫: Prostaglandin (PG) E₂ の肺線維芽細胞の遊走, および Epithelial-to-Mesenchymal Transition (EMT)における気道上皮細胞の遊走に対する作用. 第 77 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2009. 9.
- 17) Kawada T, Suzuki S, Tsukioka T, Iesaki S: Perceived health and other subjectively evaluated physical/mental health of relatively healthy inhabitants aged 85 or over in Japan. The 5th Congress of Asia Pacific Society for the Study of Aging Male (Osaka), 2009. 10.
- 18) Nagahara N, Nirasawa T: Possible production of SO from reaction intermediate formed in persulfuration of mercaptopyruvate sulfurtransferase. 第 82 回日本生化学会大会 (神戸), 2009. 10.
- 19) 武藤三千代, 渡部鎌二, 渡部月子, 若山葉子: カンボジア・シェムリアップにおける小・

- 中学生の生活環境と体格・体力について. 第 68 回日本公衆衛生学会総会 (奈良), 2009. 10.
- 20) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 禁煙支援などの場で POCT として用いられる唾液中コチニン測定の妥当性について. 第 68 回日本公衆衛生学会総会 (奈良), 2009. 10.
- 21) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 禁煙支援に用いる唾液中ニコチン, コチニン測定のために開発した唾液採取器具の応用. 第 68 回日本公衆衛生学会総会 (奈良), 2009. 10.
- 22) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鎌二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査; 肥満指標による比較検討. 第 68 回日本公衆衛生学会総会 (奈良), 2009. 10.
- 23) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 小林麻衣子, 李卿, 川田智之: ヒト末梢血 Granzyme 3 陽性細胞の Flow Cytometry 解析. 第 82 回日本生化学会大会 (神戸), 2009. 10.
- 24) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒト Granzyme 3 に対する高感度 sandwich ELISA. 第 82 回日本生化学会大会 (神戸), 2009. 10.
- 25) 大塚俊昭, 清野精彦, 雪吹周生, 小谷英太郎: N 末端 proBNP 上昇を伴う未治療高血圧症例における潜在性微小心筋傷害の検討. 第 32 回日本高血圧学会学術集会 (大津), 2009. 10.
- 26) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鎌二: カンボジア・シェムリアップ州における児童・生徒の生活調査と形態・体力測定. 第 74 回日本民族衛生学会総会 (京都), 2009. 11.
- 27) 李英姫, Rennard-I S, 滝澤始, 吾妻安良太, 川田智之, 工藤翔二: Epithelial-to-Mesenchymal Transition (EMT) におけるヒト気道上皮細胞遊走に対する Prostaglandin (PG) E2 の作用. 第 13 回アレルギー・気道上皮細胞研究会 (東京), 2009. 12.

2010

- 1) Otsuka T, Ibuki C, Seino Y: Smoking status and cardiac biomarkers in middle-aged men; a possibility of ameliorating unfavorable cardiac conditions by smoking cessation. 第 74 回日本循環器学会学術集会 (京都), 2010. 3.
- 2) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 小林麻衣子, 川田智之: Lymphokine-activated killer (LAK) 細胞による Granzyme 3 の産生. 日本薬学会第 130 年会 (岡山), 2010. 3.
- 3) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒト Granzyme 3 に特異的な sandwich ELISA の確立. 日本薬学会第 130 年会 (岡山), 2010. 3.
- 4) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之: ニコチン, コチニン同時測定のために開発した新しい唾液採取器具を用いた唾液中ステロイドホルモン類の測定. 日本薬学会第 130 年会 (岡山), 2010. 3.
- 5) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Sato S, Ishizaki M, Okamura A, Wang D, Nakajima T, Kamijima M, Kawada T: Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on splenic cell populations and histopathological alterations in spleen in Wistar rats. International Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases (ISOEAID '10)

- (KYOTO, JAPAN), 2010. 4.
- 6) Li Q, Kawada T: Green healthy forest parks make healthy people by healthy participation; Forest environments enhance human immune function. International Healthy Parks Healthy People Congress (Melbourne, Australia), 2010. 4.
 - 7) 李卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 勝又聖夫, 若山葉子, 川田智之, 大平辰朗, 松井直之, 香川隆英: 日帰り森林浴による生体免疫機能への効果. 第 80 回日本衛生学会総会 (仙台), 2010. 5.
 - 8) 小林麻衣子, 李卿, 若山葉子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 五月女孝子, 鈴木博子, 川田智之, 香川隆英: 日帰り森林浴によるリラックス効果. 第 80 回日本衛生学会総会 (仙台), 2010. 5.
 - 9) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鏝二, 渡部月子: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 一般住民との比較検討. 第 80 回日本衛生学会総会 (仙台), 2010. 5.
 - 10) 李英姫, 滝澤始, 吾妻安良太, 菅原勇, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2 ノックアウトマウス喘息モデルにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台), 2010. 5.
 - 11) 李卿, 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之, 須田恵, 王瑞生: 13 週間 ETBE 慢性吸入曝露によるマウス脾臓細胞への影響. 第 83 回日本産業衛生学会 (福井), 2010. 5.
 - 12) 大塚俊昭, 川田智之, 菅裕彦, 北川裕子, 矢内美雪: 職域におけるメタボリック・シンドロームの発症率およびメタボリック・シンドローム発症高リスク者の特徴; 縦断的健康診断データを用いた検討. 第 83 回日本産業衛生学会 (福井), 2010. 5.
 - 13) 武藤三千代, 渡部鏝二, 若山葉子, 川守田千秋, 渡部月子: 高齢者におけるラジオ体操の効果; 体格・生活活動力について. 第 17 回日本運動・スポーツ科学学会大会 (東京), 2010. 6.
 - 14) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Mechanism of carbamate pesticide-induced inhibition of human NK activity. XII International Congress of Toxicology (IUTOX2010) (Barcelona, Spain), 2010. 7.
 - 15) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Kobayashi M, Kawada T: Establishment of a new sandwich ELISA system for human granzyme 3. 14th International Congress of Immunology (Kobe), 2010. 8.
 - 16) Inagaki H, Hirata Y, Shimizu T, Kobayashi M, Li Q, Kawada T: Expression of granzyme 3 protein in human peripheral blood lymphocytes analyzed by flow cytometry. 14th International Congress of Immunology (Kobe), 2010. 8.
 - 17) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Ziram induces apoptosis and necrosis in human immune cells. 第 17 回日本免疫毒性学会 (筑波), 2010. 9.
 - 18) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代, 松井知子, 渡部鏝二: ラジオ体操が身体機能に与え

- る影響についての調査研究. 第 75 回日本民族衛生学会総会 (札幌), 2010. 9.
- 19) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 喫煙習慣と唾液中コチニン濃度. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 20) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 受動喫煙のストレス評価に用いるための唾液中カテコールアミン代謝物の HPLC 分析法. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 21) 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之: AUDIT (アルコール症スクリーニングテスト)を用いた作業者の飲酒状況の把握. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 22) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鎌二, 渡部月子: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査; 一般住民との比較検討. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 23) 武藤三千代, 渡部鎌二, 若山葉子, 松井知子, 渡部月子, 川守田千秋: カンボジア・シェムリアップにおける青少年の体格・体力の標準値について. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 24) 松井知子, 渡部鎌二, 川守田千秋, 渡部月子, 武藤三千代, 若山葉子: 定期的なラジオ体操励行者の「こころの健康」. 第 69 回日本公衆衛生学会総会 (東京), 2010. 10.
 - 25) 大塚俊昭, 雪吹周生, 清野精彦, 小谷英太郎, 草間芳樹: 「塩辛い食品」摂取状況に関する主観的評価は, 将来の血圧上昇を予測するか?. 第 33 回日本高血圧学会総会 (福岡), 2010. 10.
 - 26) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Shinkai Y, Takeda K, Kawada T, Azuma A, Takizawa H, Kudoh S: Diesel exhaust particle exposure influences bleomycin-induced lung fibrosis in mice. 58th American Society of Cytopathology (ASC) (Boston), 2010. 11.
 - 27) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液中コチニン濃度測定用試験紙の有用性の検討. 第 5 回日本禁煙科学会学術総会 (徳島), 2010. 11.
 - 28) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 禁煙支援などの場で用いる唾液中コチニン濃度測定用試験紙の基礎的検討. 第 251 回日本産業衛生学会関東地方会例会 (東京), 2010. 12.
 - 29) 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 吾妻安良太, 滝澤始, 高橋智, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2 欠損マウスにおけるブレオマイシン肺線維症病態. 第 14 回アレルギー・気道上皮細胞研究会学術大会 (東京), 2010. 12.

2011

- 1) 大塚俊昭, 李卿, 香川隆英, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 川田智之: 健常男性におけるウォーキングが NT-proBNP 値におよぼす影響の検討. 第 45 回日本成人病(生活習慣病)学会 (東京), 2011. 1.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Ziram induces apoptosis in human immune cells. 50th annual

- meeting of SOT (Society of Toxicology of USA) (Washington DC, USA), 2011. 3.
- 3) 李卿, 大塚俊昭, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 川田智之, 香川隆英: 日帰り森林浴による血圧への影響. 第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2011. 3.
 - 4) 小林麻衣子, 李卿, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 五月女孝子, 伊藤博子, 川田智之, 香川隆英: 日帰り森林浴と都市部観光によるリラクセス効果の比較. 第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2011. 3.
 - 5) 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 武田健, 吾妻安良太, 滝澤始, 川田智之, 工藤翔二: ディーゼル排気粒子のマウスブレオマイシン肺線維症病態への影響. 第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京), 2011. 3.
 - 6) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: カラムスイッチングシステムを用いた HPLC による唾液中カテコールアミン代謝物の同時分析法. 日本薬学会第 131 年会 (静岡), 2011. 3.
 - 7) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: ヒト Granzyme 3 の基質アミノ酸配列の検索. 日本薬学会第 131 年会 (静岡), 2011. 3.
 - 8) Miyachi H, Yamamoto A, Otsuka T, Yoshikawa M, Kodani E, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K: Impact of Left Ventricular Dyssynchrony on Left Ventricular Function in Heart Failure Assessed by 99mTc-Sestamibi Gated Myocardial Scintigraphy. 60th American College of Cardiology's Annual Scientific Session (New Orleans, USA), 2011. 4.
 - 9) 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 吾妻安良太, 滝澤始, 高橋智, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2 欠損マウスにおけるブレオマイシン肺線維症病態. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会 (東京), 2011. 4.
 - 10) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: カーバメイト系農薬による NK, CTL 及び LAK 活性への影響. 第 84 回日本産業衛生学会総会 (東京), 2011. 5.
 - 11) 菅裕彦, 矢内美雪, 北川裕子, 大塚俊昭: 職場復帰支援プログラムの期間と復職時の配慮, 再休職の課題について. 第 84 回日本産業衛生学会 (東京), 2011. 5.
 - 12) 大塚俊昭, 川田智之, 小谷英太郎: 職域男性集団におけるメタボリックシンドロームの発症率およびメタボリックシンドローム発症に関連する生活習慣因子の検討. 第 47 回日本循環器病予防学会 (福岡), 2011. 6.
 - 13) 小谷英太郎, 粟谷透, 大塚俊昭, 草間芳樹, 新博次: 半定量尿中食塩濃度測定による一日食塩摂取量の推定; TAMA SALT study. 第 47 回日本循環器病予防学会 (福岡), 2011. 6.
 - 14) 大塚俊昭, 西山康裕: Asymmetric Dimethylarginine (ADMA) is Related to Atherosclerotic Risk Factors and the Estimated Risk of Cerebral Infarction in Women. 第 43 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 (札幌), 2011. 7.
 - 15) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Ziram induces apoptosis in human T lymphocytes. 47th Congress of the European Societies of Toxicology (Paris, France), 2011. 8.

- 16) Otsuka T, Seino Y, Ibuki C, Kodani E: Detection of Minute Myocardial Damage in Middle-Aged Men with Untreated Hypertension; an Assessment using High-Sensitivity Cardiac Troponin T Assay. 第 75 回日本循環器学会総会・学術集会 (横浜), 2011. 8.
- 17) Tokita Y, Sato N, Otsuka T, Hosokawa Y, Munakata R, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Mizuno K: Additional Rapid Bedside Measurement of N-terminal pro-BNP Improves the Diagnostic Ability for Acute Ischemic Heart Failure. 第 75 回日本循環器学会総会・学術集会 (横浜), 2011. 8.
- 18) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Azuma A, Takizawa H, Takahashi S, Yamamoto M, Kawada T, Kudoh S: Disruption of Nrf2 enhances susceptibility to pulmonary fibrosis induced by bleomycin in mice. European Respiratory Society (Amsterdam, Netherlands), 2011. 9.
- 19) 木村英雄, 三上義礼, 渋谷典広, 木村由佳, 永原則之, 小笠原裕樹: 3-メルカプトピルビン酸イオウ転移酵素の硫化水素産生補因子. 第 84 回日本生化学会大会 (京都), 2011. 9.
- 20) Nagahara N, Ito T: MST knockout mouse production and comprehensive analysis (2). 第 84 回日本生化学会大会 (京都), 2011. 9.
- 21) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: ヒト Granzyme 3 の基質アミノ酸配列の検索. 第 84 回日本生化学会大会 (京都), 2011. 9.
- 22) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: ヒト前駆体型 Granzyme 3 に特異的な sandwich ELISA の確立. 第 84 回日本生化学会大会 (京都), 2011. 9.
- 23) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: 農薬 Ziram によるヒト T リンパ球アポトーシスのメカニズム. 第 18 回日本免疫毒性学会 (千葉), 2011. 9.
- 24) 大塚俊昭, 加藤活人, 雪吹周生, 宗像亮, 小谷英太郎, 草間芳樹, 川田智之: オシロメトリック法により測定した上腕動脈コンプライアンス指標を規定する動脈硬化危険因子の検討. 第 11 回日本 AS 学会 (東京), 2011. 10.
- 25) 大塚俊昭, 雪吹周生, 小谷英太郎, 草間芳樹: オシロメトリック法により測定した上腕動脈コンプライアンス指標の臨床的意義; 動脈硬化危険因子との関連. 第 34 回日本高血圧学会総会 (宇都宮), 2011. 10.
- 26) 大塚俊昭, 勝又聖夫, 川田智之: 健康診断における生活習慣に関する問診から食塩過剰摂取者の識別は可能か?. 第 70 回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 27) 小谷英太郎, 栗谷透, 大塚俊昭, 草間芳樹: アンギオテンシン II 受容体拮抗薬/利尿薬併用が有用な背景疾患の検討; TAMA SALT study からの報告. 第 34 回日本高血圧学会総会 (宇都宮), 2011. 10.
- 28) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代, 渡部隼二, 川守田千秋, 渡部月子: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績; 運動継続群の推移. 第 70 回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 29) 武藤三千代, 渡部隼二, 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 川守田千秋, 渡部月子: 高齢者における運動と脳機能年齢について. 第 70 回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.

- 30) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 視覚的に捉えるためのタバコ煙の簡易な採取方法とガス成分の測定方法. 第70回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 31) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: POCT を用いた防煙教育. 第70回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 32) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代, 松井知子, 渡部鎌二: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査; 一般地域住民との比較検討. 第76回日本民族衛生学会総会 (福岡), 2011. 11.
- 33) 松井知子, 若山葉子, 武藤三千代, 大嶺智子, 朝野聡, 渡部鎌二: 高齢者の運動とメンタルヘルス; ラジオ体操励行者の場合. 第76回日本民族衛生学会総会 (福岡), 2011. 11.

2012

- 1) 加藤活人, 大塚俊昭, 遠藤宗臣, 今陽一, 小谷英太郎, 川田智之: 正常耐糖能者における5年後の耐糖能悪化リスクの予測; 75g糖負荷試験による検討. 第46回日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (東京), 2012. 1.
- 2) Kato K, Otsuka T, Kobayashi N, Kodani E: Two-hour Post-load Plasma Glucose Levels are Associated with Carotid Intima-media Thickness in Subjects with Normal Glucose Tolerance. 第76回日本循環器学会総会・学術集会 (福岡), 2012. 3.
- 3) Otsuka T, Kato K, Kodani E, Ibuki C, Seino Y: Serum Cystatin C Predicts the 4-Year Risk of Incident Hypertension in Middle-Aged Subjects without Chronic Kidney Disease. 第76回日本循環器学会総会・学術集会 (福岡), 2012. 3.
- 4) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Effect of ziram on natural killer, lymphokine-activated killer and cytotoxic T lymphocyte activity. 51st annual meeting of SOT (Society of Toxicology of USA) (San Francisco, USA), 2012. 3.
- 5) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: カーバメイト系農薬 Ziram によるヒトNK細胞のアポトーシス. 第82回日本衛生学会学術総会 (京都), 2012. 3.
- 6) 小林麻衣子, 李卿, 大塚俊昭, 平田幸代, 平田紀美子, 五月女孝子, 川田智之: 森林浴による気分への影響. 第82回日本衛生学会学術総会 (京都), 2012. 3.
- 7) 若山葉子, 川田智之, 勝又聖夫: ウイルス肝炎地域流行既往者の長期追跡成績. 第82回日本衛生学会学術総会 (京都), 2012. 3.
- 8) 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 吾妻安良太, 滝澤始, 武田健, 川田智之, 工藤翔二: ディーゼル排気粒子の気道上皮細胞の遊走, および上皮間葉移行 (EMT) に及ぼす影響. 第82回日本衛生学会学術総会 (京都), 2012. 3.
- 9) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: カラムスイッチングシステムを用いた唾液中 Cotinine の測定. 日本薬学会第132年会 (札幌), 2012. 3.
- 10) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: 抗ヒト Granzyme 3 モノクローナル抗体の酵素活性への影響. 日本薬学会第132年会 (札幌), 2012. 3.

- 11) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: FRET 基質ライブラリを用いたヒト Granzyme 3 と Granzyme A の活性比較. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.
- 12) Li Q, Kawada T: Effect of forest environment on the human psycho-neuro-endocrino-immune network. IUFRO First Conference “Forest for People” in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 13) Lee J, Li Q, Park BJ, Kagawa T, Miyazaki Y: Nature therapy and preventive medicine. IUFRO First Conference “Forest for People” in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 14) Lee J, Tsunetsugu Y, Takayama N, Park BJ, Li Q, Komatsu M, Ikei H, Tyrvainen L, Kagawa T, Miyazaki Y: Physiological benefits of walking in the forests; Evidence-based field research in Japan. IUFRO First Conference “Forest for People” in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 15) Tsunetsugu Y, Lee J, Takayama N, Park BJ, Li Q, Komatsu M, Ikei H, Tyrvainen L, Kagawa T, Miyazaki Y: Stress-reducing effects of viewing the landscapes in forests assessed by multiple physiological measurements. IUFRO First Conference “Forest for People” in Alpbach (Alpbach, Tyrol/Austria), 2012. 5.
- 16) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: カーバメイト系農薬 Ziram による T 細胞、単球系細胞及び NK 細胞死の違い. 第 85 回日本産業衛生学会総会 (名古屋), 2012. 5.
- 17) 大塚俊昭, 小宮智春, 川田智之: 交替勤務者と平常勤務者における動脈硬化指標の比較および動脈硬化進展に関連する生活習慣因子の検討. 第 85 回日本産業衛生学会 (名古屋), 2012. 5.
- 18) 加藤活人, 大塚俊昭, 遠藤宗臣, 今陽一, 小谷英太郎, 川田智之: 健診受診者における 75gOGTT 結果を用いた 5 年後の耐糖能悪化リスク予測式の作成. 第 55 回日本糖尿病学会年次学術集会 (横浜), 2012. 5.
- 19) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Ziram induces apoptosis in human natural killer cells. 48th Congress of the European Societies of Toxicology (Stockholm, Sweden), 2012. 6.
- 20) 大塚俊昭, 加藤活人, 遠藤宗臣, 今陽一, 小谷英太郎, 川田智之: 健診受診者における 75 グラム糖負荷試験結果を用いた耐糖能悪化リスク予測チャート作成の試み. 第 48 回日本循環器病予防学会 (東京), 2012. 6.
- 21) Li YJ, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Shinkai Y, Takeda K, Azuma A, Takizawa H, Yamamoto M, Kawada T, Kudoh S: Nrf2 is closely related to enhance bleomycin induced airway inflammatory responses caused by diesel exhaust particles in mice. 22nd European Respiratory Society (Vienna, Austria), 2012. 9.
- 22) 李卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 若山葉子, 勝又聖夫, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 川田智之: ヒト末梢血リンパ球内の perforin、granzymes 及び granulysin レベルが NK 活性を予測できるのか. 第 19 回日本免疫毒性学会 (東京), 2012. 9.
- 23) 大塚俊昭, 川田智之: 職域男性集団における喫煙および禁煙と空腹時血糖障害(IFG)/糖

- 尿病(DM)発症リスク. 第 71 回日本公衆衛生学会総会 (山口), 2012. 10.
- 24) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 両親学級に併せた「喫煙の健康影響教室」の取り組み. 第 71 回日本公衆衛生学会総会 (山口), 2012. 10.
- 25) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: POCT を用いた防煙教育-2. 第 71 回日本公衆衛生学会総会 (山口), 2012. 10.
- 26) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代, 渡部鎌二, 川守田千秋, 渡部月子: 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査; 2006~2011 年参加者の推移. 第 71 回日本公衆衛生学会総会 (山口), 2012. 10.
- 27) 武藤三千代, 渡部鎌二, 若山葉子, 川守田千秋, 渡部月子: 高齢者における生活活動力と健康関連 QOL について. 第 71 回日本公衆衛生学会総会 (山口), 2012. 10.
- 28) 大塚俊昭, 加藤活人, 小谷英太郎, 雪吹周生, 清野精彦: 中年男性集団における高血圧発症予測因子としての血清シスタチン C と推算糸球体濾過量の比較. 第 35 回日本高血圧学会総会 (名古屋), 2012. 10.
- 29) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之: 抗ヒト Granzyme 3 モノクローナル抗体による酵素活性の上昇. 第 85 回日本生化学会大会 (福岡), 2012. 12.
- 30) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: FRET 基質を用いたヒト Granzyme 3 の反応速度論的解析. 第 85 回日本生化学会大会 (福岡), 2012. 12.

2013

- 1) Li Q, Kobayashi M, Kawada T: Carbamate pesticides induce apoptosis in human NK-92CI cells. 52nd annual meeting of SOT (Society of Toxicology) (San Antonio, USA), 2013. 3.
- 2) Otsuka T, Munakata R, Kato K, Kodani E, Ibuki C, Kusama Y, Seino Y: Oscillometric Measurement of Brachial Artery Cross-Sectional Area and Its Relationship with Cardiovascular Risk Factors and Arterial Stiffness in Middle-Aged Men. 77th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (横浜), 2013. 3.
- 3) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: 唾液中 Chromogranin A の EIA 測定法における唾液採取器具の検討. 第 83 回日本衛生学会学術総会 (金沢), 2013. 3.
- 4) 小林麻衣子, 李 卿, 川田智之: 都市公園で行う森林浴の効果. 第 83 回日本衛生学会学術総会 (金沢), 2013. 3.
- 5) 李英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 武田 健, 吾妻安良太, 滝澤 始, 山本雅之, 川田智之, 工藤翔二: Nrf2 欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子曝露のブレオマイシン気道炎症病態への影響. 第 83 回日本衛生学会学術総会 (金沢), 2013. 3.
- 6) 李卿, 小林麻衣子, 川田智之: カーバメイト系農薬によるヒト NK 細胞のアポトーシス. 第 83 回日本衛生学会学術総会 (金沢), 2013. 3.
- 7) 平田紀美子, 勝又聖夫, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 川田智之: 防煙教育・禁煙支援に用いる

簡易タバコ煙中ガス成分測定. 日本薬学会第 133 年会 (横浜), 2013. 3.

研究助成等

科学研究費補助金 特定領域研究

- 1) 李卿、川田智之 [分担] (代表;宮崎良文(千葉大学)): 生理人類学体系化の試み; 実験生理人類学と理論生理人類学の視点から. 科学研究費補助金 特定領域研究, 2008.
- 2) 李卿 [分担] (代表;香川隆英(森林総合研究所)): 都市近郊におけるストレス緩和効果 (Stress-reducing qualities of urban green areas). 科学研究費補助金 特定領域研究, 2010-2012.

科学研究費補助金 基盤研究

- 1) 李卿 [代表]、川田智之、永原則之 [分担]: パーフォリンノックアウトマウスを用いる有機リン農薬による免疫機能低下の機序の検討. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2003-2005.
- 2) 川田智之 [代表]、稲垣弘文、若山葉子、李卿、勝又聖夫、李英姫 [分担]: 携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2004-2007.
- 3) 李卿 [分担] (代表;呂玉泉(大阪大学大学院)): ライフスタイルと末梢血ゲノム DNA 安定性との関連性に係わる予防医学的追跡研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2005-2007.
- 4) 若山葉子 [代表]、勝又聖夫、川田智之 [分担]: 凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2006-2008.
- 5) 李卿 [代表]、川田智之、石崎正通、稲垣弘文、平田幸代 [分担]: 有機リン農薬による免疫毒性の新機序; 有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2007-2009.
- 6) 川田智之 [代表]、稲垣弘文、若山葉子、李卿、大塚俊昭、李英姫、勝又聖夫 [分担]: 交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2008-2011.
- 7) 李英姫 [代表]、川田智之、吾妻安良太、稲垣弘文、平田幸代、清水孝子 [分担]: ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2009-2011.
- 8) 稲垣弘文 [代表]、平田幸代、川田智之、大塚俊昭 [分担]: ヒト血漿中グランザイム3は炎症反応のマーカーとなるか. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2009-2012.
- 9) 勝又聖夫 [代表]、川田智之、稲垣弘文、平田幸代、平田紀美子 [分担]: 受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物で行う研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C),

2009-2012.

- 10) 李卿 [代表]、川田智之 [分担]: カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2010-2013.
- 11) 平田紀美子 [代表]、勝又聖夫、稲垣弘文、川田智之、小林麻衣子 [分担]: 女性, 特に妊産婦に対する POCT を用いたインパクトのある継続的な禁煙支援法の構築. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2010-2013,
- 12) 李英姫 [代表]、川田智之、吾妻安良太、稲垣弘文、平田幸代 [分担]: ディーゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012-.
- 13) 大塚俊昭 [代表]、川田智之、稲垣弘文、西山康裕 [分担]: メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012-.
- 14) 川田智之 [代表]、稲垣弘文、若山葉子、大塚俊昭、勝又聖夫 [分担]: 職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究. 科学研究費補助金 基盤研究(C), 2012-.

科学研究費補助金 若手研究

- 1) 大塚俊昭 [代表]: 職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明; マルチバイオマーカーを用いた検討. 科学研究費補助金 若手研究(B), 2009-2011.

省庁等研究補助金

- 1) 李英姫 [分担] (代表; 武田健(東京理科大学)): ナノ粒子の健康影響の解明とその克服に関する研究. 文部科学省 私学助成私立大学学術研究高度化推進事業, 2010.
- 2) 李英姫 [分担] (代表; 武田健(東京理科大学)): 環境と次世代健康科学; 疾患原因解明と予防に向けた先進的研究. 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業, 2011-.

財団研究助成

- 1) 大塚俊昭 [代表]、川田智之、稲垣弘文、勝又聖夫 [分担]: 老化と血中アディポネクチン; 老化による動脈硬化性疾患発症におけるアディポネクチンの関与. 財団法人総合健康推進財団一般研究奨励助成, 2004.
- 2) 川田智之 [代表]、稲垣弘文、勝又聖夫 [分担]: 喫煙者における臨床検査値の特徴に関する研究; 非喫煙者, 喫煙者, 禁煙者における血液検査値の統計学的比較検討. 喫煙科学研究財団研究助成金 特定研究, 2004-2005.

- 3) 李卿 [代表]: 森林セラピーに係わる研究. 平成 19 年度 (社) 国土緑化推進機構・森林セラピー実行委員会助成金, 2007.
- 4) 李卿 [代表]: 森林系環境要素が人の生理効果に及ぼす影響に係わる調査研究. 平成 19 年度長野県信濃町役場助成金, 2007.
- 5) 川田智之 [代表]、稲垣弘文、勝又聖夫、平田紀美子、大塚俊昭 [分担]: タバコ依存度質問紙調査法の心理測定上の特性;職域におけるデータ解析. 喫煙科学研究財団研究助成, 2007-2009.
- 6) 大塚俊昭 [代表]、川田智之、勝又聖夫 [分担]: 健診男性集団における潜在性心機能障害・微小心筋障害の頻度およびこれらに影響を与える因子の検討. 財団法人循環器病研究振興財団 平成 20 年度公募自由研究課題助成, 2008.
- 7) 大塚俊昭 [代表]、川田智之 [分担]: 血管炎症は血圧上昇および高血圧発症に関与するか? 特異的血管炎症マーカー, ペントラキシン 3 を用いた職域コホート研究. 財団法人いきいき健康増進財団 生活習慣病予防等に関する研究助成, 2009.
- 8) 大塚俊昭 [代表]、川田智之、勝又聖夫、雪吹周生、清野精彦 [分担]: 「好ましくない」生活習慣および生活習慣病の保有は初期腎機能低下と関連するか?—職域健診における血清シスタチン C を用いた検討—. 聖ルカ・ライフサイエンス研究所 臨床疫学などの研究助成, 2010.
- 9) 川田智之 [代表]、稲垣弘文、大塚俊昭、勝又聖夫 [分担]: 血管炎症指標, インスリン抵抗性, 抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の相互関係. 喫煙科学研究財団研究助成, 2011-.

委託研究

- 1) 李卿 [代表]: 森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明. 農林水産省高度化事業研究, 2004-2006.
- 2) 川田智之 [代表]: 森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明. 農林水産省高度化事業研究, 2004-2006.
- 3) 李英姫 [分担] (代表; 工藤翔二(内科学第 4)): 気管支ぜん息等の発症増悪リスクとしての環境要因の寄与の程度に関する研究. 環境再生保全機構, 2005.
- 4) 李英姫 [分担] (代表; 滝澤始(帝京大学)): 気管支ぜん息の発症リスク低減に関わる因子の検索と管理・指導への応用に関する調査研究. 公害健康被害予防事業に係る調査研究, 2006-2007.
- 5) 李卿 [代表]、川田智之 [分担]: 森林環境要素および身近な森林浴が生体免疫機能へ及ぼす効果の解明. 森林総合研究所助成研究, 2009-2010.
- 6) 勝又聖夫 [代表]、川田智之、稲垣弘文、平田幸代、平田紀美子、小林麻衣子 [分担]: 禁煙支援などの場で POCT として用いられる唾液中コチニン測定の妥当性の検討. セティ(株), 2010.

受賞

- 1) 李卿 (個人): 日本産業衛生学会奨励賞,有機リン農薬による免疫毒性のメカニズム, 日本産業衛生学会,2006,5.
- 2) 李卿 (個人): 平成 18 年度日本医科大学医学会奨学賞,有機リン農薬による免疫毒性の新しい機序, 日本医科大学医学会,2006,9.
- 3) 大塚俊昭 (個人): 財団法人博慈会老人病研究所平成 19 年度優秀論文賞, Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population, 2007,9.
- 4) 李英姫 (個人): アレルギー・気道上皮細胞研究会研究会賞, 低濃度ディーゼル排気粒子の長期曝露による気道炎症病態, およびアレルギー性喘息発症に及ぼす影響におけるマウス系統差, 2007,12.
- 5) 李卿 (個人): 財団法人博慈会老人病研究所平成 20 年度優秀論文賞, Visiting a forest, but not a city, increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins, 2009,1.
- 6) 李英姫 (個人): 第 15 回マクロライド新作用研究会 研究奨励賞受賞, EM・EM703 はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する, 2009,7.
- 7) 李英姫(個人): 第 80 回日本衛生学総会会長賞, Nrf2 ノックアウトマウス喘息モデルにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響, 2010, 5.
- 8) 李卿, 小林麻衣子, 若山葉子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李英姫, 平田紀美子, 清水孝子, 鈴木博子, 大塚俊昭, 川田智之(グループ): 平成 22 年度日本医科大学賞 (研究部門), 森林環境 (森林浴) が生体免疫機能に及ぼす影響に関する研究, 2011, 3.
- 9) 加藤活人 (個人): 第 46 回日本成人病 (生活習慣病) 学会一般演題優秀演題会長賞, 正常耐糖能者における 5 年後の耐糖能悪化リスクの予測: 75g 糖負荷試験による検討, 2012, 3.
- 10) 李英姫 (個人): 第 83 回日本衛生学会総会繊維・粒子状物質研究会推奨演題賞, Nrf2 欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子曝露のブレオマイシン気道炎症病態への影響, 2013, 3.

知的財産

- 1) 勝又聖夫, 市川泰夫 (学校法人日本医科大学, 株式会社アシスト): 意匠権 (唾液採取器具), 意願 2007-030922 (2007, 11, 8)
- 2) 勝又聖夫, 市川泰夫 (学校法人日本医科大学, 株式会社アシスト): 意匠権 (唾液採取器具), 意願 2007-030924 (2007, 11, 8)
- 3) 勝又聖夫, 市川泰夫 (学校法人日本医科大学, 株式会社アシスト): 実用新案権 (唾液採取器具), 実願 2007-008663 (2007,11,8), 登録第 3138944 号 (2007, 12, 26)

編集後記

今回、川田教授の命を受け、教授就任 10 周年記念誌の編集責任者として関わりました。当初の予定より発刊が遅れしまい、本誌の完成を心待ちにしていた教室員の方々にはご迷惑をおかけしましたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

本誌が公式な発行物であることは承知の上で、せっかくの機会ですのでこの場をお借りし、本誌編集の際に感じたことを記させていただきたいと思います。

川田教授が当教室に着任された 2003 年 5 月時点ですでに在籍されていたスタッフのうち、何名が現在も在籍しているかを、本誌冒頭の「教室員一覧」から調べてみました。すると、当時在籍の 12 名中 8 名が現在も在籍しています。途中、大学法人人事規定の改定による定員減があるものの、教員 2 名および技術員 1 名が入れ替わっていました。

この数値の変化を「多い」と見るか、「少ない」と見るか。私は、「非常に良いバランスなのでは」と考えました。人員が全く固定してしまった組織では、得てして、モチベーションの低下、思考の硬直化、チャレンジ精神の欠如等が見受けられます。一方、人員が著しく入れ替わる組織では、大きな目標が立てられず、その場凌ぎの仕事しかできません。さらに、人員が居着かない何らかの組織固有の問題を内包している可能性も疑われます。

川田教授着任以前から在籍されているスタッフは、衛生学実験の専門家や当教室伝統の感染症疫学研究を専門とした方々でした。そこへ、生活習慣病や高齢者の QOL など、現代社会で問題となっている分野におけるフィールド研究を専門とする川田教授が着任され、それ以降、教授の専門と関連するフィールド研究を得意とするスタッフが加わった形となります。その意味で、現在のスタッフ構成は、教室の伝統的な研究テーマをさらに深く追求しつつ、新たな分野へもチャレンジする、という教室の理想像を実現するための望ましい構成ではないでしょうか。

本教室の強みはまさにこの点にあると思います。各々のスタッフがその専門性を互いに生かしあい、それらの融合によってもたらされる **synergy effect** を最大限に活用して、より高いレベルの研究・教育がなされることが期待されます。私もこの **synergy effect** に乗り、より質の高い研究・教育を行うべく、日々努力していきたいと考えます。

最後になりますが、この 10 周年記念誌は、巻頭の川田教授の言葉にもありますように、将来の展望を描くためのマイルストーンの役割を果たします。各教室スタッフにおきましては、本誌を一読し、今後の大学人としての目標や方向性を再確認していただければ、編集責任者としてこのうえない幸甚でございます。

2013 年 6 月 大塚 俊昭

日本医科大学 衛生学公衆衛生学
川田 智之 教授 就任 10 周年記念誌

発行元 日本医科大学 衛生学公衆衛生学
東京都文京区千駄木 1-1-5
発行日 2013 年 7 月 1 日
修正日 2013 年 9 月 3 日(Ver2.0)
編集責任者 大塚 俊昭

